

令和6年度

市民と議会の意見交換会

# 報 告 書

令和7年(2025年)3月

旭川市議会



## 目 次

1	はじめに	2
2	開催の概要	3
	(1) テーマ, 開催日時, 場所及び参加者数	3
	(2) テーマごとの担当班及び班員一覧	4
3	テーマごとの記録	5
	(1) 北のにぎわい旭川 ～新文化会館による中心市街地活性化に向けて～ (経済建設班)	5
	(2) 地域における子どもの育ちを考える ～体験格差の課題等について～ (子育て文教班)	2 1
	(3) 旭川市の救急医療体制について ～持続可能な救急医療体制に向けて～ (総務班)	3 5
	(4) インクルーシブなまちづくり (民生班)	4 5
4	アンケート集計結果	6 1
5	アンケート用紙<参考>	7 1

## はじめに

旭川市議会基本条例に基づき、今年度の「市民と議会の意見交換会」を令和6年11月1日、7日、14日、15日の4日間、開催いたしました。

この意見交換会は、市民の皆様の様々な意見等をお聴きすることにより、市長やその他の執行機関に対する監視、政策形成などの議会機能を高めることによって市民の皆様の福祉の向上と旭川市政の発展に寄与することを目的としています。

今回で12回目となりましたが、今年度も各常任委員会の委員で班を編成し、各常任委員会が担当している分野における様々な課題の中から自らテーマを設け、市議会議場、同委員会室のほか、旭川市障害者福祉センターを会場として実施し、延べ122人の方々に御参加いただきました。

実施に当たり、大変お忙しい中、企画段階から御協力くださいました団体の皆様、また多くの関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに、御来場いただいた市民の皆様から多くの御意見等をお寄せいただきましたことに、心から御礼申し上げます。

この報告書は、各テーマごとの意見交換の主な内容を掲載しており、加えて、各班による意見交換会についての「まとめ」も記載させていただいておりますので、多くの市民の皆様に御覧いただければ幸いに存じます。

旭川市議会

議長 福居 秀雄

## 開催の概要

### (1) テーマ、開催日時、場所及び参加者数

班	テーマ	開催日時	開催場所	参加者数(人)		
				男	女	合計
経済建設	北のにぎわい旭川 ～新文化会館による中心 市街地活性化に向けて～	11月1日(金) 午後2時00分 ～4時00分	市議会議場 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	19	7	26
子育て文教	地域における 子どもの育ちを考える ～体験格差の課題等について～	11月7日(木) 午後6時30分 ～8時30分	市議会委員会室 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	14	10	24
総務	旭川市の救急医療体制について ～持続可能な 救急医療体制に向けて～	11月14日(木) 午後1時30分 ～3時30分	市議会委員会室 (7条通9丁目, 旭川市総合庁舎8階)	13	18	31
民生	インクルーシブなまちづくり	11月15日(金) 午後6時30分 ～8時30分	旭川市障害者 福祉センター (宮前1条3丁目)	22	19	41
合計				68	54	122

※ 参加者数には当日協力いただいた団体等の人数も含まれます。

## (2) テーマごとの担当班及び班員一覧

班	テ ー マ	班 員			
		議 員 名	所属会派等	議 員 名	所属会派等
経済建設	北のにぎわい旭川 ～新文化会館による中心 市街地活性化に向けて～	菅原 範明 あべ なお 高木 ひろたか 高橋 ひでとし	自民党・市民会議 自民党・市民会議 旭川市民連合 自民党・市民会議	石川 厚子 高見 一典 中村 のりゆき	日本共産党 民主・市民連合 公明党
子育て文教	地域における子どもの 育ちを考える ～体験格差の課題等について～	高花 えいこ 江川 あや 横山 啓一 笠井 まなみ	公明党 民主・市民連合 無所属 自民党・市民会議	中村 みなこ 駒木 おさみ 佐藤 さだお 品田 ときえ	日本共産党 公明党 自民党・市民会議 民主・市民連合
総務	旭川市の救急医療 体制について ～持続可能な救急 医療体制に向けて～	えびな 安信 塩尻 英明 上野 和幸 植木 だいすけ	自民党・市民会議 旭川市民連合 無党派 G 旭川市民連合	皆川 ゆきたけ たけいし よういち まじま 隆英 松田 卓也	公明党 自民党・市民会議 日本共産党 自民党・市民会議
民生	インクルーシブな まちづくり	高橋 紀博 石川 まさゆき 小林 ゆうき 沼崎 雅之	民主・市民連合 自民党・市民会議 旭川市民連合 自民党・市民会議	金谷 美奈子 中野 ひろゆき 能登谷 繁 安田 佳正 杉山 允孝	無党派 G 公明党 日本共産党 無所属 自民党・市民会議

※ 所属会派等は市民と議会の意見交換会開催時の表記としています。

テーマごとの記録

《 北 の に ぎ わ い 旭 川  
 ～新文化会館による中心市街地活性化に向けて～》  
 (経済建設班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時	令和6年11月1日(金) 午後2時00分～4時00分				
出席議員名	班員	代表	菅原 範明	受付	高木 ひろたか
		司会	高橋 ひでとし	受付	中村 のりゆき
		資料作成・広報・勉強会	高橋 ひでとし	記録	あべ なお
		資料作成・広報・勉強会	石川 厚子	記録	高見 一典
正副議長	議長	福居 秀雄			
参加者数	26人				

意見交換の主な内容

【市民】

旭川冒険遊びの会という団体から来ました。

まず、この新文化会館が市民の利用を促進するためのものなのか、観光客を含む、市に住んでいない人たちのためなのかというところを明確にしてまちづくりを行う必要があると思います。

買物公園のモビリティとか芝生も良いと思いますが、新庁舎ができて、土日も若者や学生が勉強しに集まって来ています。この近くに新文化会館を建てると同じ場所に同じ世代が集まってしまわないかと感じているので、できれば大成エリアや少し離れた場所に作っていただいて、分散型のまちづくりの波及効果を狙ってはどうか。

また、買物公園の社会実験を見ていて、4条通から常磐公園側は市民は利用しても観光客の方は余り来ないという印象があるので、大成や神楽エリアにもう少しにぎわいを持たせるためにも、新文化会館の建設など、市民が利用しやすいまちづくりの形を考え、中心部は観光客など旭川市に訪された方々がもっと楽しめるようなまちづくりの形にしていけば良いと思いました。

【議員】

市民文化会館は、市民の集客、市民の皆さんが楽しんでもらえるような会館なのか、それとも経済のため、観光客の誘致も含めた皆さんが楽しめる施設なのかということかと思いますが、両方を求めているかといけないと思います。

買物公園の4条通以北が、市民も含めて人通りが少ないという状況の中で、駅前から文化会館までの買物公園のルートで市民のにぎわいを求めるなら、文化会館の機能の中

で観光客やJRでの来訪者、ホテルに泊まっている方なども楽しめるような施設にならないと、なかなか買物公園や中心市街地の活性化にはつながらないと思います。そうするとどういった施設が良いのか、規模的な問題など大きな課題があると思います。

【議員】

議会の委員会や本会議など、常日頃中心市街地の活性化の議論がなされます。

なかなか先が見えない中でそのような議論をさせてもらっておりますが、今回新文化会館を建設するに当たって、最初の趣旨にあったように、これを起爆剤として中心市街地の活性化をさせていきたいという思いもあります。

旭川市内と言うだけでは広い区域を指しますが、一度コンパクトシティを目指すのも一つの手ではないかと感じております。

これから様々な方向性を決めながら計画が進んでいくと思いますが、御意見を取り入れながら十分検討していければと思います。

【議員】

文化会館の建設地について言及があったと思いますが、最初の説明にありましたように建設予定地は旧庁舎跡地ということに決定いたしました。

その上で市民のためなのか、観光客のためなのかということは本当に大切な視点だと思いますが、私も両方だと思います。市民が訪れやすい、また、観光客も訪ねて来やすいものです。

観光客などでも例えば市役所に用事があって来るとき、JR旭川駅で降りるとタクシーを利用される方が多いと思います。旭川の市街地は残念ながら駐車場やシャッター街が増えてしまいましたが、市街地を楽しみながら市庁舎あるいは文化会館に来るという方も増やしていけるようなまちづくりを目指していけたらと思います。

【議員】

建設予定地については私も議会で提案させていただいて、新庁舎の隣、旧庁舎を取壊した跡地が、適しているとさせていただきました。

市役所との連携が密になりやすいという部分と、文化会館において大きなコンサートイベントがあるときに地方から来る人たちも含めると、中心市街地から近いと宿泊施設が利用しやすいということもあります。

御提案があったエリアも候補地にありましたが、最終的に旧庁舎跡地ということになりました。

今、コロナ明けで外国人観光客が来ているかと思っています。空港の海外利用客数も伸びていると思います。私も同様に市民向けなのか、観光、経済を含めて観光客向けなのか、全体的・総合的な観点での文化会館施設が良いと思います。

商工会議所の役員の方々と意見交換した折に、コンベンションセンター機能を十分取り入れてほしいという意見がありました。コンベンションセンターとは、展覧会会場とか、会議室を含めた部分を称しており、私もそのような機能があるのが良いと思います。

また、一般市民も観光客も、若い人たちが文化会館に足を運んでくれるために、しゃ

れた喫茶店、要するに全国チェーンの有名店や、しゃれたレストランとか、そのようなものも入った文化会館も良いのではないかと感じております。

#### 【議 員】

観光客向けだけでなく市民の方々がより楽しめる施設でなければならないと思いますし、基本的な役割として日常利用ということであれば、市民向けのことを意識していると思います。

第一に市民が市民文化会館の建物を利用して喜んでいただける施設になっていかなければならないと思いますし、そのにぎわいづくりとどう関係させていくかということと言うと、買物公園の6条・7条辺りと連携していくことになると思います。

例えば御議論いただいている買物公園エリアの未来ビジョンも、5条・6条は食で様々な人を引きつけていこうという方向性で検討していますので、市民文化会館の共用スペースの中にも、催しが無いときの時間、飲食可能な空間としても、その中核施設みたいなことも考えていく必要があると思います。

市民の方に楽しんでもらえるような施設であったほうが良いという御意見かと思って聞いていましたが、例えば下國シェフが市民文化会館の食のところを先導していただくようなことだとか、そこと買物公園と一緒に利用可能なチケットを出すとか、市民の方々も、このエリアが面白いと思っていただけるようなことまで考えられると思います。

そのようなことを意識しながら、観光客の方々が喜んでいただけるような施設、両方を狙っていくということが大事だと思います。

#### 【議 員】

市民目線での利用ということはすごく大事だと思っております。

私も埼玉県からの移住者ですが、地元の文化会館に子どもを連れていくと、始まる前に時間を潰す喫茶店のほか、地元の名産品などを子どもと一緒に見られるような場所もあります。しかし旭川市へ移住してきて、文化会館に行ったときに小さい売店しかなくて、始まるまで子どもを連れてどこで時間を潰せば良いのかと思いました。

買物公園まで小さい子どもを連れて歩くと少し距離があるのと、おしゃれなお店、お茶したりするところもあるのですけれど、子どもを連れておいしいもの食べたりして少し待とうねってという場所がないというのが正直な感想です。

市民目線で考えたら文化会館の中に、全国チェーンの有名店などは、私は反対ですが、旭川市でしか楽しめないものとか、木工や家具など旭川らしさを楽しめるところがないと観光客に足を運んでもらうことにつながらないと思います。飲食店を出すのなら旭川でのみ、ここだからこそというものであってほしいというのがまず一つです。

もう一つは、観光客を誘致するに当たっても「文化会館」という名称が少しイケていない気がします。例えば上野公園の中に東京文化会館がありますが、日本語名としての名前は東京文化会館ですが、外国人専用地図など外国人向けには「Tokyo Metropolitan Festival Hall (東京メトロポリタンフェスティバルホール)」のようになっています。

英語で言うとそこで楽しいことができるホールだという印象を与えるような言葉に置き換えられているのです。

文化会館という名前の建物は日本全国どこにでもあるので、観光客の耳も目も引くように考えると、名称も含めて検討していかなければならないと思いました。

## 【市 民】

私は買物公園で、ある店舗の事業を承継させていただきました者です。私も旭川人ではなく縁あって旭川に参りました。

旭川でびっくりしたのが、買物公園としてまちのにぎわいを作っていこうというときに、そこにトイレがないことです。文化会館の整備基本構想のテーマから離れるかもしれませんが、強く疑問に感じています。

新文化会館のターゲットが今明確になっているのだろうかと思っておりましたが、旭川市民のハード（建物）なのですよね。そうでありつつ、旭川以外からお越しの方に対しての文化発信拠点として良いと思います。しかしまずは旭川市民が楽しめる受皿というのが必要だと思います。

また、旭川の中心街はモータリゼーションを取り込み損ねたと思います。最初の交通戦争と言われた頃、歩行者天国をつくりました。しかし、街はどんどん郊外型になり、車を保有して移動する方がすごく増えてきました。

公共交通機関として、以前はまちなかを電車が走っていたと聞きました。これが全部なくなって、今はバスとタクシーの2択です。再整備は非常に難しいかもしれません。

しかし、新庁舎を作るときの検討会議、市民の情報収集の場に私も出たことがあり、新庁舎の1階にバスが入れるようにしてはどうか、電気自動車は一応排気ガスは出さないで問題ないと思い提案をしました。残念ながらもう設計が固まっていたようで、どこにもその案は載りませんでした。

文化会館の設計時には、まだ日本にはない、次世代のモータリゼーションを取り込んだ移動の選択肢、バスで市民が来やすいよう直接建物の中に乗り入れる案はどうでしょうか。今までの車は排気ガスを出していたからできなかったと思います。

今年、買物公園のほうで実証実験、まちにち計画で小型の電気自動車を走らせていました。楽しい音楽でも流してもらったら良いと思うくらいに静かな移動手段でした。旭川市の8条通界わいの住人の方、マンションの方とかが中心部、駅前の方の商業施設等に行くときにとっても良かったとのこと。距離は約1kmですけれども、今、旭川の方って1kmでも歩きづらいという人が多いです。そういった部分も加味して、多くの市民が気兼ねなく寄れるところにしてもらいたいと思います。

## 【議 員】

今の御意見にはたいへん重要なポイントが幾つかございました。トイレが買物公園にないということもさることながら、駐車場についてです。確かに文化会館の中に作るべきだという御指摘はもっともだと考えます。

他方で車で来て車で帰ってしまうと、果たしてそれによるまちなかに対する経済効果があるのかどうかという点も疑問としてあると思います。

対象はもちろん市民であることは間違いなくて、しかも複合施設化を狙うということであれば、多少年齢層が低い高校生とか大学生とか、つまりバスやJRを使う、そうい

う人たちが対象になります。

それによって、バスの乗客数が増えて、加えてJRの利用者も増えると、旭川市内における交通手段のメリットも非常に高まると思います。更に、歩行者が増えることによって、そこを歩く人をどう商店街に取り込んでいくか、そういうことが重要な今後の課題になっていくと感じます。

## 【市民】

買物公園で音楽教室をしております。

日頃音楽を生業にしていますので、演奏会とかパフォーマンスとか、そういうイベントのことで、文化会館が新しくなるのなら、こういうところが変わってくれたら良いという話が聞けると思って参加させていただきました。

これから整備が始まるということですが、文化会館は1,000人以上の収容がありますので、市内・道内外のパフォーマンスをする人たちに使われることが多いと思います。トイレの話が出ましたが、現在のところ、楽屋のトイレがとても小さいです。

50人、100人以上の出演者の方たちが使用されるときに、お客様のほうに出ていかなければいけなくなったりしています。新しくなるのであれば、そういうところも考慮していただきたいです。

使いやすいホールということになって、もしかしたら海外のアーティストさんが来るということもあったら、ホテルも買物公園もにぎわうと今お話を伺っていて思いました。

また、大ホールの響きのことに関してですが、だんだんオーディエンス（聴衆）の聞く耳というのが増えてきて、若い人たちとか、音楽好きの方とか、観劇好きの方など、音響や設備に興味を持っている方がたくさんいらっしゃいます。しかし実際文化会館でオーケストラを聴いたときのがっかり感、響きのなさというのは、昔から言われているとおりです。クリスタルホールでは少しレベルが上がっていると思いますが、文化会館でオーケストラを聴くことはとても難しいと思います。

小ホールも300人くらいの収容数で、市民が気軽に使えるホールです。発表会なども良いのですが、あそこも響きが良くないので、もしそういうことを考慮していただければ、お芝居をするにも、音楽にするにも専門的な方の意見を聞いて建てただけなら良いと考えます。そういう意見も出たら良いと思っておりました。

お話を伺っていて、多目的で、様々な年代の方に使われるようにということですがけれども、札幌にhitaru（札幌文化芸術劇場）という大きな、コンベンションセンターみたいな施設があり、よく行きますが、少し残念なのが、図書館も併設されていて、学生さんたちが勉強されているのです。これからコンサートに行くときに、お菓子をいっぱい持っている学生さんたちとか、ずっと長居しているのだろうなという方たちがいっぱいいて、これって何だか、観劇する人の気分がどうなのだろうというものもあります。

多目的になったらなった分、何か目的感というのが薄まってしまうことがあるので、旭川はすごくちょうど良いまちだと思いますので図書館も充実しておりますし、公民館もありますし、そういうところで、目的感がはっきりした文化会館というものが新しくできてくれたらうれしいです。

【議員】

目的をはっきりするという関連で、過去に議員が一般質問で文化会館のコンセプト(方向性)は何かということを質問しました。まだ定まっていないという答弁だったと記憶しています。

コンセプトづくりはすごく大事だと思っています。今、図書館とかオーケストラというようなお話を頂きましたが、私のほうにも美術関係の方から旭川には市立美術館がないので文化会館は美術館のような側面も持ったものを建ててほしいという要望を頂いたこともあります。文化会館、文化というところで目的、コンセプトのはっきりしたところが必要と思っています。

また、そのコンサートやオーケストラを聴いた後に、その後の余韻を楽しめる場所が買物公園に欲しいと思います。

多目的にするとお菓子を食べたりとかで、少しその雰囲気は……というのもそうなのですけれど、良い音楽とか良いものを体感した後にその余韻をいつまでも楽しみつつ語ったりできるような場所が買物公園に欲しいので、中心市街地と合わせて全体的なイメージと言いますか、中心市街地も含めたコンセプトづくりが大事だと思いました。

【議員】

旭川市の買物公園、中心市街地の4条通以北を含めて人通りが少なくなっています。以前、人口がどんどん増えているときに一戸建て住宅に憧れて郊外に住宅がどんどん建ち、ドーナツ化現象になってしまったことも一つの要因になるかと思っています。中心部に人が集まるような取組も議会としてやっております。

その中で今回、文化会館を建て直すということです。今の文化会館は1974年に建ち、半世紀が経ちます。半世紀・50年といえはまだまだ使えそうではないかとも思いますが、これまでに空調設備など老朽化し、かなり修復費用がかかっているのも現実です。事務所などが旧小学校の建物を利用しているので事務所の建物自体がもう耐震性がなく、そのような部分を含めて早急な建替えが必要だということになりました。

御意見がありましたように、音響効果など、これから建てる部分においては、素晴らしい機材を含めて取り組むと思いますし、控室や観客の方も含めて、トイレが混雑しては駄目ですので、そのような部分も対応しなければなりません。今年度から基本計画検討会を立ち上げて、具体的に利用団体等の皆様方の御意見も聞く場を設けて、どういう文化会館が良いのか、旭川市にふさわしいのか、多くの市民に利用していただける、足を運んでいただけるようになるのかということを検討しています。

先ほど全国チェーンの有名店と言いましたが、そういったしゃれたようなお店の中で、旭川のやりたい人が店を出す場合、地元産の食材を使った提供ということを含めて、皆さんに愛される文化会館に向けて議会としても取り組んでいきたいと思っています。

【市民】

元々深川市の生まれですが、高校卒業後に東京に出て、9年前に旭川に来ました。文化会館というのは、大都市から小都市まで大体あります。

文化会館に用があるといえば、イベントだとか、展示を見に行くとか、そういうことしかないと思います。他の所もそうだと思います。買物公園も私が9年間旭川にいて、新しく店ができたというのは、ここはれての飲食店くらいで、あとはみんな空き家になっていて、全然活性化していないと思います。今後も少子高齢化、人口が減っていく中で衰退の傾向にあると思います。

都心にいた頃は交通も発達していて電車でどこでも行けましたが、旭川の場合は、車で来られる方が多いです。美術館だとか科学館だとか、三浦記念館だとかが離れてポツポツあるわけです。東京にいる友達が旭川に行きたいけれど、旭川に何がありますかと聞かれると、一番手っ取り早い、有名な旭山動物園を紹介します。

市民の方は車があるからすぐに行けますが、観光客はバスとかタクシーだとかで行かなければならないとなると、交通手段がないのです。

文化会館の周りに、図書館などありますが、もう余分な土地はないので、今後この辺に美術館だとかはできないと思っています。私が文化会館に来たのはイベントと、写真が趣味なのでギャラリーの写真を見に来ますが、写真とか美術展というのは美術館とか、ほかにもギャラリーがありますので必ずしも文化会館に行くという理由はありません。ですから、もう少し集中して、旭川の街にそういうものが見られるところがあれば、他の観光客も来たときに立ち寄れると思います。

また、冬は余り歩かないと思います。駅前のイオンにたくさん人がいるのです。私が中学校の頃、駅ビルの地下に商店街がありました。深川から来ますと、寒いから外に出ていなくて、地下街で食事をしたり、すごくにぎわっていました。夏の間はある程度歩けますけれど、特に冬になると街を歩く人は少ないと思います。

旭川駅の裏側はあんなに景色がよくて、コーヒーショップか何かできれば、富良野へ行く乗換えのときに時間を潰されたりするのではないかと思います。富良野に行く人たちの乗り継ぎで、駅の中にも1階には椅子がありますが、ホームには全くありません。

これから文化会館も必要ですけれども、全体的なまちづくりを考えないと、市民だけではなくて観光客も少なくなってくるのではないかなと思っています。

## 【議 員】

人口減少だとか、まちなかが衰退しているのではないかという御指摘もありました。現状としては空き店舗だとか駐車場になっているような、路面店なんかも、現状として厳しいという認識は共有しているところです。

1時間以内しかまちなかにいないという人の率が高いということもあって、目的が一つの点としてしかなく、滞在時間も少ない現状をどうしようかということが課題になっていると思っています。

御指摘があったように、目的地が点在しているので、行く場所が郊外であれば観光客の方々は移動手段の課題があります。買物公園の中で目的を複数つくっていただければ、滞在時間も増えますし、にぎわいにもつながってまいります。

点から線、線から面になっていくような形で、昔は商店街の買物公園だったと思うのですが、分断をどう解消するか、その一つとして、市民文化会館を作ろうとしています。

市民文化会館と、ここはれてを結ぶような企画的なものも必要でしょうし、皆さん方

がここへ行くと面白いと言っただけで、特に子どもさんが行きたいというところに親が一緒に行こうとしますので、市民文化会館も子どもも楽しめるような場所にして行ってみたくなるような仕掛けを考えていく必要があると思います。

駅ビル地下のステーションデパートは私も記憶にあります。確かに冬場は旭川市民は歩かない、季節によって歩行者の人数も減ります。旭川市民は寒さには慣れているので冬でも楽しめる氷彫刻美術の世界大会だとか、楽しんでいる姿もたくさん見ているので、イベントがあるときはにぎわいがあるのも分かります。イベントのないときにどういうにぎわいをつくっていくのかということは課題だと思います。

今の御意見も踏まえながら市民文化会館、点を線にする、線を面にするという試み、仕掛けを考えたいと思います。

### 【議 員】

今御意見にあったように、私も駅裏をもっと活用したほうが良いと思います。例えば夏でもイルミネーションにするとか、人が集まれるようなことをしたほうが良いと思います。私も東旭川の駅前に住んでいて、冬は車の運転をしたくないので電車で駅前に行くと、駅前のイオンの所に人がたくさんいます。

駅前で子どもと時間を使ったり、イオンばかりうろうろしているのも面白くないので、スケート場の営業日数をきちんと確保してもらいたいというのもありますし、冬も時間を使って滞在する時間を延ばす工夫が必要だと思っています。

また、旭川に引っ越してきて昼からお酒が飲めるところが少ないと思っています。私はお酒が好きなのですが、最近だと書籍も出ているぐらいに昼飲みスポットが女性にも人気あるのです。旭川にはおいしいお酒がいっぱいありますので、もう少し昼からお酒を飲んで楽しめるような場所が駅前や駅裏、買物公園にできたら良いと思います。

たまに旭川駅前ビルの地下の飲食店に行きますが、ああいうところも昼飲み好きな人たちがたくさん集まっています。語って飲んですぐ帰るのではなくて買物公園を結構うろうろしたりしています。そういう方が増えたりとか、昼からお酒が飲めること自体を観光コンテンツの一つとして展開していても良いと思います。

都心では今外国人観光客にスナック体験というのがはやっていて、スナック文化として夜はすごく人気です。旭川にもスナック文化があります。昼から飲める場所もあれば昼間の観光客の滞在時間を延ばせるとしています。観光スポットの冬の間の集中という部分で考えても良いと思います。

### 【議 員】

ここまで、旭川のまちづくり全体としてどうするか、中心市街地活性化のためにどのような仕掛けをしていくかというお話であったと思います。

ここからは、今日のテーマである文化会館、新文化会館の経済的な効果に着目をして、どのような新文化会館をつくり上げていくべきかというところに焦点を絞ってお話、議論させていただければ有り難いと思います。

例えば、我々が旭川商工会議所などから要望を受けている一つの項目で、今津市長の公約でもあるところで、文化会館の複合施設化、つまり、単に文化施設だけではなくて、

図書館とか、市民活動ルームとかを複合的に兼ね備えた施設というものを設置すべきではないか、そういう計画を立てるべきではないかという点。

それがまちなかに人が集まる起爆剤になっていくのではないかというような考えもあるところがございます。

他方で、文化会館は文化のための設備なのだから、文化に限定をした施設をつくるべきではないかという御意見もあろうかと思われます。

いずれが良いのかは回答がないところですので、皆さんの御意見などを承りながら、しっかり考えていく、検討していく必要があると考えております。

複合施設が良いのか、文化に限定した施設が良いのか、どちらが良いのかとそういう視点から、可能であれば御意見を頂ければ有り難いです。

### 【市 民】

今言われたのは分かりますが、資料に施設整備における配慮事項としてホール、ギャラリー、活動室、共通スペースとあります。この概要が分からないと、何か議論ができない。例えば建物が5階建てで大ホールと中ホールと音楽堂があるとか、ギャラリーはどのぐらいの広さで展示では何枚ぐらい貼れるとか、具体的な案が多分今はないと思いますが、もし構想があれば教えていただければ、それに対する意見というのはあると思います。単なるここの配慮、設備の抽象的なことだと、議論が進まないと感じます。

### 【議 員】

この場は整備計画の検討会の場所ではなく、皆さんの率直な御意見、様々な意見をたかひ合わせる場という位置づけです。

現時点における具体的な内容、計画、それ自体もそもそも決まっていません、それを前提として議論する必要性もないと思います。もっと自由な感じで、こういうのが欲しい、ああいうのが欲しい、で構わないと思います。

ただ、それがどうまちづくりにどうつながるのか。その点だけしっかり御意見いただければ有り難いと思っています。

### 【市 民】

今御意見を頂いた中で、施設整備における配慮事項ということで幾つかテーマがあり、文化会館の建物としては良いかもしれませんが、全て一極集中にしてしまうとそこだけで様々なストーリーが終わってしまいます。

そうするとまちづくり全体を考えたときに広がりや欠いてしまうのは否めません。

総花的にてんこ盛りにしてしまうと誰のために何をやるのかが分からなくなって、中途半端になってしまうと思います。

例えば、ホール、音楽活動を表現してもらおう場を用意しますというときに、海外の有名なアーティストをお呼びしても耐えられるような建物にするとか、そういうことは必要ないと思います。

それは札幌など大都市圏にお願いして、旭川は十分に表現できる性能で良いのではないのでしょうか。札幌を見ないといけない部分もあるのかもしれませんが、札幌になりた

いわけではないと思います。

先ほど議員もおっしゃっていましたが、コンサートが終わっておなかがすいたので御飯を食べていこうかというような動線が、まちの中にできればにぎわいになります。

実際、新庁舎になってから、買物公園の7条通以北でしょうか、5条通ぐらいから、飲食店さんに、「新市庁舎になって市民の方もたくさん来ているので昼食時の状況とかはどうですか」と聞いたら「いつやめようかな」とおっしゃっているのです。

経済効果が全く感じられません。それは点と点でみんなが動いてしまうからです。

面で町をつくるストーリーがまだ共有できてないのです。

必ずしも建物に依存する部分だけではないとは思いますが、文化会館を拠点としたまちのにぎわい、とすると、点としての新しい文化会館とそれを受ける、買物公園周辺を総合的につなげていくようなまちづくりが大事ではないかと思いました。

### 【議 員】

言われたとおりです。新文化会館にどういった機能を盛り込むのかがこれからの議論になってまいります。道立旭川美術館なり、三浦綾子記念館なり、それぞれ点在しているので、お互いに紹介できるような場もあれば、他の所にも人が行くかもしれません。

もりもりパークのような子どもたちが遊べるようなものを入れれば、子ども連れの御家族が来るのかもしれませんが。様々な意味で盛り込みたい中身はたくさんありますが、収容人数は決まってまいります。

大きさに何人収容の大ホールが適切なのか、今は2,000人も入れない大ホールですから、イベント等で来ていただけたとしても厳しいものがあります。

例えば3,000～5,000席とかになると来る人たちも違ってきます。

そうすると、JRの利用、ホテルの利用など、全国から泊まってでも見に来るようになる可能性もあります。様々な意味で文化会館の機能によっては広がる可能性を見いだせると思います。

収容人数を考えながらどうしていくのかというのが今後の議論になるので、いただいた意見は貴重な意見として、活かしていきたいと思えます。

駅から買物公園にかけては花が咲いているルートがありません。以前駅前周辺の道路の雑草がひどいとも言われました。玄関口としてはどうなのだという意見がありました。

旭川駅、旭川の中心市街地に行って、街がきれいだという部分、更に大きなイベントのときは沿道に垂れ幕のようなものを利用して、買物公園と文化会館が一つになるようなルートをつくるのか、そういう部分をまずしっかりとやっていかないと、点になっているのが面につながっていかないと、意見を聞いて思いました。

### 【議 員】

立派なものができたらすばらしいと思えますが、3,000席のホールを常に満席にするぐらいの力が旭川市にあるのかということ考えたとき、疑問に思わざるを得ません。

文化会館が立派になると、一極集中になってそれで完結してしまうのではないかといいこともおっしゃいましたが、私もそのとおりだと思います。文化会館による中心市街地活性化といいますが、旭川駅前から文化会館までの距離ととらえられがちだと思いま

す。今日の資料を見ていただいてもお分かりだと思いますが、旭川の中心市街地っていうのは実はかなり広いのです。

駅前から平和通を通過して常磐公園まで、それから三番館のほうも含めた大成エリアと、神楽も中心市街地なのです。旭川駅から神楽は、実はすごく近いのです。

文化会館方向に向かうのと同時に、神楽のクリスタルホール方向に向かうということも含めて、中心市街地全体を活性化させる必要もあると思います。

また果たして中心市街地だけで良いのかという問題もあると思います。

東鷹栖や西神楽の方などから、交通の便が悪くなった、バスの便数が減ったという御意見も寄せられます。中心市街地を活性化するのも大事ですが全旭川の地域を活性化しなければ、少子高齢化と言われている中で市民が元気にならないので、そのところも含めて考えていきたいと思っています。

## 【市民】

新文化会館までの周辺地域を含めたときに、先ほど議員が言っていたような、地産地消のものもそうですが、常磐公園まで行かないと緑がないということも感じております。

以前あった建物がなくなって、駐車場ばかりが増えて、緑がどんどん失われていくと考えたときに、新文化会館の周りにもう少し緑が欲しいと思っています。

緑というのは、花を植えるだけではなくて、公園など腰をおろして休める場所という印象を持っております。

旭川でいうと北彩都ガーデンのような場所を新文化会館の周りや旭川駅から市役所までの間に、少しつくれたら良いと思っており、公園の近くは、食べ物、飲物や優佳良織などの文化工芸も含めたものが点在していて、それを市民はもちろん観光客も含めた方々が交流しながら体験できたりするような場所ができてくれるとうれしいと思います。

## 【議員】

方向性を決めることは非常に大事なことだと思います。

それにより一本筋が通ることによって、設計そのものが変わり、建物を見る人も増えます。海外の方も道外の方も、その建物を見に来ることも非常に大事なことだと思います。専門的な見地からも御意見を頂いて取り入れていくべきだろうと思います。

東京に出たときには、たまに歌舞伎も見に行きますが、オーケストラも見られて、観劇も見られる施設が欲しいと思います。ただ、お金は幾らかかるのだろうとは思いますが。

先ほど東京から来られたという方のお話も頂き、外から来ると旭川もよく見えると思います。駅地下の商店街は、駅が新しくなるときに、今後も商店街を残して今のFeeealまで地下で通してほしいという話をしたこともあります。

買物をして冬の寒いときには、時間がないのでずっと地下を歩いていけるような通路ができないかという話をしたこともあります。一遍にはできないけれどそういった仕掛けが必要だと思います。

文化会館にどんな仕掛け、どんな動線をつくるかが一つの重要な点になってくるだろうと思っています。

## 【議 員】

市民文化会館を建て替える計画として書いてありますが、具体的にはまだ全然決まっています。

検討会や利用者の団体を含めて意見を聞きながら、どういう文化会館が良いのか、今日来ていただいた皆さんから、こういう文化会館を作ってほしいという部分を含めて御意見をいただきたいということです。

常磐公園には樹木など緑が豊富ですが、旧庁舎の跡地はもう限界ぎりぎりです。

ハード（建物）だけではなくてソフト面で、フラワーガーデンみたいな見た目、夏の期間だけでもきれいに周辺を飾るといのは良いことだと思います。

財政に余裕があれば、様々な施設ができます。大は小を兼ねるように様々な構想が出ますが、限られた財源ですから、有効に利用しながら、利用しやすい良い施設にしていくのが一番重要だと思います。

心配しているのは駐車場です。今の文化会館の大ホールは収容人数が約1,500人ちょっと、小ホールが300人ちょっとです。

規模的に言えば3,000人、4,000人とかの物を建てても、経費もかかりますし、人員含めて可能かと言えば難しい部分です。大きくても2,000人規模、それに中か小のホールは必要と思っております。

駐車場は旧庁舎跡地に作るわけですから、地下駐車場はありますけれども、その辺の構造上含めて大丈夫なのかという部分も当然調査しなければなりません。私は、今文化会館があるところに、立体駐車場が必要と思っております。

せっかく大勢の人が文化会館にコンサートで来てくれたのに、駐車場がなくてぐるぐる回って、これは最悪です。もう二度と旭川に行きたくないというふうに、駐車場がないということで嫌われると思いますので、民間との競合もありますけれども、駐車場の計画をしっかり立てながら整備していくというのは大事なことだと思っております。

## 【市 民】

文化会館という名前自体を一新して、横文字の名前だとかにして、皆さんが旭川にこういうのができたと言物のように言えるものがないと、できたと思ったらすぐ頓挫するような名称ではないほうが良いような気がします。単純に文化会館という名前だけだと恐らく余り魅力は感じられないという感じがします。

館内には各施設の御案内を電光掲示板にして、今やっていることが分かるようにしたほうが良いと感じています。

買物公園とのつながりも大事だと思いますので、文化会館内に新しくできるところの食べる場所とか、そういう部分も必要だとは思いますが、そこだけで完結しないような感じと、開館時間を今の午後9時までから10時くらいに延長しないと次に結びつかないような気がします。その辺の時間の問題も少し触れたほうが良いと思いました。

どちらにしても旭川駅から新しくできる文化会館のところにうまくつながるような、魅力のあるような形というか、そういうものも欲しいと感じていました。

庁舎が新しくできましたが、大変びっくりしたのは、北口さんのパレードをやることや、金メダルをとったということが、外からは全然見えなくなって、中にだけ、金メダ

ルおめでとうとなっていることです。どうして外の、前のほうに出さないのでしょうか。よく見たらそういう場所は全くありません。文化会館も、そんなことがないような形でできればと思っていました。

#### 【議 員】

東京から来られた写真趣味の方の御意見のように、写真は何枚ぐらい展示できるのかなど、そういうのは全然決まっていないうところなんです。整備基本計画検討会を設置して、その中で話をしていくのかと思ひ、どういふ人が参加しているのかと思ひて参加者名簿を見てみると、公募の方もいますが役職を見ると12名のうちほとんどがすごく偉い方です。

こういう方々が果たして、最初にあつたよふなコンサートの音響のこととか、楽屋のトイレのこととか、基本概要にあるよふなホームページやSNSなどを活用した情報発信とか、このメンバーで誰がSNSやっているのかというよふなメンバーも結構多いよふな印象を受けました。

今のよふに市民の方から意見を聞いたものが届くのだらうかという心配もあつて、参加者のほかに市民の意見とか、専門家の意見を反映できるよふな場というのを、基本計画検討会の中でも行政としてお話を聞くよふな機会として設けていかないと、意見がなかなか反映されない、行政として検討していかなければいけない部分だと感じました。

#### 【議 員】

文化会館の閉館時間を遅くするとか、そういうのも確かにあると思ひます。

夜終わつてから、そのまま三六街のほうに出ていただいたら、そこで経済の活性化につながるかと、そういうこともあります。魅力あるまちづくりです。文化会館だけでなく旭川市内がどうやって魅力あるまちづくり、中心市街地活性化の基本計画の目標は、まちなかに来るといふこと、まちなかに住むといふこと、まちなかの滞在時間を延ばすといふことの三つです。

まちなかに住む、では今、高層マンションが建てられていますが、話を伺つたところによると、上と下の階は売れているけれど中間はまだ余り売れていないとか、売れたとしても果たして住んでもらえるのか、投資目的でないのかといふことも思ひたりして、まちなかに住むといふところも、大事だと思ひています。

まちなかの滞在時間を延ばすといふところも、文化会館で観劇していただけると2時間は居ることになりますので、ある程度まちなかの滞在時間を延ばせると思ひますが、少し買物に来て、町中に駐車場はあつても駐車料金が高くなるから、60分以内とか90分以内で帰るとなると、滞在時間が延ばせることになりませんので、どうやったら、多くの方が中心市街地に来ていただいて、長い時間滞在していただけるのか、そういうことを私たちがこれからも考えていきたいと思ひます。

#### 【議 員】

名称の話も出ましたが、神奈川県の大和市にシリウスという名前の文化会館があつて、視察に行つてきましたが、5、6階建てぐらひの建物で上のほうにお年寄りのための無

料で健康診断ができるという場所もありました。

なぜこういうのもあるのか聞きましたら、この施設に来ていただくとお年寄りの方が無料で健康診断をして、早い段階で病気を予防することができて、その結果の例として、国民健康保険に関する市の負担が年間2割から3割ぐらい減ったというのです。そのような効果もありますという話を聞きました。

文化会館というのは、そんなふうに様々な方にお越しいただいて、様々な仕掛けをすることによって、市の財政の削減にも寄与するものなのだとすることを私自身、学んだ次第でございます。

## 【市 民】

私は買物公園で副理事をしております。

今までの意見の中で、まず文化会館が集客ができる施設であるということで、点と点を面にしていくということもありました。買物公園も通行量が増えて、増えていけば当然それによって空き店舗が徐々に減っていきます。今は通行量が少ないので出店すらできないというのが現状です。

新文化会館、名称の部分も含めて、建物はどうなるか、大いに期待をしております。

駐車場、買物公園としてはいかに通ってもらうか、ここは重要ではありますが、一人の市民として考えたときには、私も今日車で来ていますし、市役所に来るときも必ず市民は車だと思えます。駐車場の問題は、買物公園も文化会館も同様だと思うのでこの部分はしっかりやっていただきたいと思えます。

文化会館の規模についても意見がありましたが、集客できるような施設、また内容としてほしいです。札幌では札幌ドームとエスコンフィールドの問題がありました。現状を見た中では札幌ドームは市が経営している第三セクターですけれども、エスコンはああいう形、白黒はっきりする中で、良い参考にしながら文化会館も検討していただければ有り難いと思えます。

## 【議 員】

今の件を含めて貴重な意見をたくさんいただいたと思えます。

キトウシ森林公園にいっぱいエゾリスがいます。緑のない公園はないという意見で、文化会館の周辺で、エゾリスが見られるような、森があるとか、まちなかで文化会館の横に公園があって森があって、そこで見られるとか、そういう部分があれば、全然印象が変わってくると思ひ、今回貴重な意見をいただいたと思っております。

今文化会館の建替えという形で行っていますが、完成が近づいていくと名称は変えていかないといけないとも思っております。今後の議論になると思っております。

今いただいた意見も、検討していく中身ですが、もう一つだけ言うと、旭川は道北の中心なのです。札幌とはもう雲泥の差、人口も差がありますが、道北地域の中での旭川の位置づけ、財政状況は厳しい中ではありますが、道北の中心の旭川であるということも含めて、中心市街地、文化会館の検討に入っていくといけないと思っております。

【議員】

先ほど来、点と点だけではなくて面にしていくということが重要だというお話をしていただいたと思います。空き店舗も解消するために市のほうでも努力をして、中心市街地出店促進補助金も出しており、家賃の3分の1以内で毎月10万円上限、最大12か月間の支援をしているということがあります。

年間10件ぐらいが利用しているという現状だと思いますが、そこが加速して使っただけのような形で、通行量が増えていけば、利用していただける方も増えてくるのではないかと考えております。

また今、大事な視点を教えていただいたと思うのが、札幌ドームとエスコンフィールドの官民の違いです。民間の視点を持ってどう人を集めていくかというところを見習っていきべきだという御意見だと思いますので、その視点はこれから私たち議会の中でも議論の中心に据えながらやっていければ、非常に良いものができるのではないかなと考えており、しっかり取り組んでいきたいと思っております。

【まとめ】

経済建設班では、新文化会館の建設に向けて中心市街地との関連や活性化を探るために「北のにぎわい旭川～新文化会館による中心市街地の活性化に向けて」と題して実施しました。

結果的に、政策提言の具体的な材料となる御意見を得るまでには至らなかったものの、現在の中心市街地において不足している部分や新文化会館への要望などの発言がありました。

主な御意見として、旧総合庁舎跡地への建設計画は妥当なのか、大成や神楽エリアでも良かったのではないかと、まちなかの公共交通における電気自動車の導入といったモビリティの整備、図書館や美術館等の文化施設間連携、北彩都ガーデンのような緑の空間を設け、文化施設などを点在させて活性化を図ってはどうか、文化会館という名前自体を一新すべき、音響効果、適正な規模の建物とし、十分なトイレの確保、開館時間延長でまちなかの滞在時間も延長し、にぎわいを創出すべき等の御意見をいただきました。

一方、議員からも場所の決定経過や意見に対する考え方、御意見を活かしてまちづくりのために取り組んでいくとの発言がありました。

本市として、新文化会館建設に向けて、いよいよ本格的な検討がなされていくわけですが、この新しい文化会館が、将来多くの市民に愛され、旭川の発展に帰する起爆剤となるものと大きな期待を寄せているところです。

最後に、御参加いただいた市民の皆様にご心より感謝を申し上げます。



## テーマごとの記録

# 《 地域における子どもの育ちを考える ～ 体験格差の課題等について～ 》 (子育て文教班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時	令和6年11月7日(木) 午後6時30分～8時30分				
関係団体	永山第三地区市民委員会 旭川冒険遊びの会				
出席 議員 名	班 員	代表・関係団体	高花 えいこ	受付	佐藤 さだお
		司会	横山 啓一	受付	品田 ときえ
		賛助・関係団体・絵	江川 あや	広報・記録	笠井 まなみ
		広報	中村 みなこ	関係団体・記録	駒木 おさみ
	正副議長	副議長	中村 のりゆき		
参加者数	24人				

### 意見交換の主な内容

意見交換の前に、関係団体である永山第三地区市民委員会及び旭川冒険遊びの会から、テーマに関する活動報告がありました。

永山第三地区市民委員会からは、「オタスケマン」と称した登下校の見守りなどボランティア活動等について、旭川冒険遊びの会からは、プレーパーク活動について、いずれも日々の活動の中で感じたことを交えた問題提起などについて、お話を頂きました。

#### 【市民】

私は個人でトイドローンという小さいドローンを使って、週1回くらい、様々な子どもたちとイベントを行っています。今日は前向きな意見を述べたいと思います。

まず公園の使用について、ある地域のボランティア団体が子どもたちと一緒にごみ拾いをしようという企画があったので、私はその姿をトイドローンで撮影してあげたいと思いました。公園でトイドローンを飛ばすのは駄目だと言われていましたが、申請したら許可がおりました。公園を使用するのは本来60万円くらい必要なところ今回は無料にするという使用許可でした。こうした内容では市民は萎縮してしまいます。

ボランティアの内容次第では逆に感謝状を出してもいいのではないかと思います。子どもたちも、いいことをした実感を持ち、積極的に参加するのではないかと思います。

公園では釣りやゴルフの練習を禁止していると聞きました。確かに危険なこともありますが、誰もいないときは使用しても良いのではないかと思います。何でも禁止にするのはいかがかと思えます。公園は市民のものだと思うので、クレマーみたいな人もい

と思いますが、危険な状況がなければ使っているのではないかと感じています。

また、公民館やホールなどは、5名以上でなければ借りられない制限があります。地区センターなど1人で借りられるところもありますし、使用料は1名でも10名でも料金は変わらないので、もし5名以上使う団体から申請があった場合は調整するという条件を付ければ、公民館なども別に5名という縛りは要らないのではないかと思います。

#### 【市 民】

私は個人で子どもの遊び場やイベントを提供しています。冒険遊びの会のスタッフもしているほか、公園やデイサービスでも活動しています。パートで様々なところで子どもたちと関わるのですが、公共施設については料金の面よりも利用の仕方、制限が多過ぎると思います。子どもたちの身体能力が落ちていることを問題視していることと矛盾しているのではないのでしょうか。

クレームを恐れることはわかりますが、常設のプレーパークの話には賛成で、ケガを恐れずに遊びたい子が遊べるような場が無さ過ぎではないかと思います。

#### 【議 員】

公園の使用許可に関しては私も思うところがあって、子どもたちに関わることや、無償利用の際の使用許可に、必ず減免金額が書かれていて、あなたのところはこれだけ無料にしましたと主張したいように見えて、疑問に思っており、提言しながら改善していきける部分ではないかと考えています。

また、子どもたちの自由な遊びによる育ちと、安全確保のための制限を、どのようにバランスを取っていくのかについて考えなければならぬと思いました。

例えば先ほどの事例紹介にもありましたが、プレーパークであれば、その場の特性を前提にして遊び始めるからこそ、自由に遊べるのではないかと思います。

市民の皆さんは、例えばどの地域にこうした施設があればいいなどの御意見をお持ちか伺いたいと思います。

#### 【市 民】

永山地区ですが、夏場、子どもたちは一生懸命外で汗をかいていますが、冬場は外で遊ぶ機会が少なくなってしまう。私と農家の人と連携し、雪で真っ白な農家の田んぼを解放し、自由に走ってもいいし、水性スプレーで絵を描いてもいい。そしておながすいたら永山のお米で作ったおにぎりを自由に食べてよいという、会を作り、SNSで告知したところ、150名も集まりました。

#### 【市 民】

春光台地区で団体を運営しております。子ども食堂や地域食堂等の団体として、児童センターが圧倒的に足りないということを感じています。地区ごとで考えても、遠くて子どもの足では難しい場合もあります。また、春光台の方には地区センターと公民館はありますが、雨が降ったときに遊べる場所がありません。

図書館の分室が公民館には入っていますが、長居できるような場所ではないので、子

どもたちがその時間好きに行ける場所が、それぞれの子たちの徒歩圏内にあるようにできないかと常々思っています。

## 【市 民】

労働者組合の事業団に所属しております。児童館の話が出ましたが、児童センター、30万以上の都市で6館しかないというのは本当に残念なことだと思います。

もっと小さな都市でも、校区に一つくらいはあって、私が住んでいた釧路地方の田舎でも、児童、留守家庭児童会などとは別に1校に一つありました。自由来館ができるところが圧倒的に少なく、飲食、ゲーム、携帯電話も禁止で利用にかなり制限があります。最近では携帯電話を小学生も持っているので許可され、暑さ対策で飲物も良いことになっています。そんな中、児童センターの職員が頑張っていて、出張児童館という、児童館や児童センターがないところで活動していたり、マチデコキッズとあって、子どもたちが主体になって活動したりしているのですが、職員、人手が足りない、ボランティアを募ってもなかなかできないので月1回、出張児童館においては1年に1回くらいしか開催できない状態であると聞いています。

今、外で遊ぶところで、こども家庭庁から、子どもの第3の居場所を作るという推奨が出ているはずですが。国からの助成と自治体の助成で、そういう場所を作るようにという状態になっていて、既に取組のある市町村があり、旭川も是非そうした取組を進めていただきたいと思っています。

今日は子どもとは何歳までの定義をしていますか。公園の遊具が新しくなった話がありましたが、公園の遊具は対象年齢が12歳までとされています。子どもとは12歳までというのは違うと思います。大きい子はどこ行って遊べばいいのかと感じてしまいます。

そういう子たちが駅裏の河川敷に集まって、良いことも悪いこともやっているという話が出て、一斉に補導が入ったりしていますが、子どもの置かれている厳しい状況について、もっと実態を知っていただきたいと思っています。

夏冬の休み期間中に朝食や昼食を取れない子どもたちがいるのが現状です。給食は提供されていますが、十分に食べることができないと、夜の食事が無い可能性も考えられます。この問題の責任が親や家庭にあるのか、行政にあるのかは一概には言えませんが、正に体験格差が浮き彫りになっています。子どもを放置している親が全て悪いわけではなく、放置せざるを得ない状況にある方々も多く存在します。そのため、こうした状況についてもっと多くの声を聞いていただき、理解を深めていただきたいと考えています。

## 【議 員】

子どもたちの現状が、把握しづらくなっているのが現実です。私は学校の教員でしたが、学校の状況も見えにくくなっています。家庭の状況にアクセスできなくなっているため、どのような子育てが行われているのかも不明です。行政に関しても、詳細な調査が難しいため、相談がなければ問題が埋もれてしまいます。したがって、地域で活動している方々から、こうした課題が存在することをもっと把握する必要があります。市民の方からもお話がありましたが、子どもたちができないことや特有の特徴についての情報を収集しなければ、旭川という街が、子どもが育つ環境としてどうなのか疑問が生じ

るでしょう。課題はまだまだ多く残されていると感じます。

#### 【市 民】

旭川においても不登校が急激に増加していると考えられます。学校に通わない、通えない理由は明確ではありませんが、行きたくない、行けない、行かないという子どもたちが増えているため、この問題について真剣に考慮する必要があると思います。

#### 【議 員】

不登校は旭川に限った問題ではなく、全国的に広がっている課題です。教育関係者を中心に、どのように対処すべきかが大きなテーマとなっています。一方で、学校に通えない子どもたちのために地域での居場所を作る必要性についての議論も重要です。この問題をどのように考えていくべきか、従来の学校教育の枠組みの中でのみ捉えられてきましたが、今後はその枠を超えて議論を深めることが求められると考えます。

#### 【議 員】

学校という場は制約が多い場所であり、その制約が増え続けているために不登校の子どもたちも増加しているのだと感じます。窮屈な状況です。子どもたちと活動を行う際も、様々な制限の中で力を育むことを見守りたいと思う一方で、時間や人手、後片付けなどの問題があり、なかなか実現できないのが現状です。しかし、教師や親としてはその思いを持っており、地域でそうした場を増やしていくことがとても重要だと考えています。学校もその方向に進むことが望ましいと強く思っていますが、そうでなければ不登校問題は改善されないでしょう。学校の変革は大きな課題であり、地域で何かを創り出す方が、必ずしも早いわけではありませんが、希望が見えるように感じています。

#### 【市 民】

現在、旭川市内には多くの民間のフリースクールや支援団体が存在しています。不登校支援者の会も新たに設立されてきている状況です。しかし、これらの団体に対する市の補助については、最終的には保護者からの資金提供が必要となり、現状ではどこかからの負担が生じているのではないかと考えています。この点について、市として今後より充実した支援が可能になる道があるのか、また現状についても関心があります。

#### 【議 員】

フリースクールに関しては、学校長や教員が正式に認めている場合、授業としての形で補助金が支給されます。しかし、報告書の作成や活動内容の報告など、教員にかかる負担は大きいのが現状です。また、補助金が親によって不正に使用され、フリースクールの手に渡らなかった事例も存在します。補助金が直接学校に振り込まれる形が望ましいとの要望もありましたが、交渉は難航し、改善には至りませんでした。

更に、学校の授業として認められていないフリースクールでは、子どもやその親にかかる負担が大きく、支援が必要であると強く感じています。フリースクールは子どもたちの居場所として重要な役割を果たしていると実感しており、今後は政策としてこの分

野にもっと力を入れていきたいと考えています。

### 【議 員】

不登校は学校教育の問題として捉えられてきたため、現在の状況が生じていると言えます。つまり、学校の教育課程を履修している場合には認められるが、単なる居場所としての利用では認められないという明確な区分が存在するため、このような事態が発生しています。しかし、無視できない数字が示されているため、現場からは学級に複数の不登校児童生徒が存在することが当たり前になっているとの声も聞かれ、学校側では対応が難しい状況です。このような現実に対する嘆きの声も多く、社会全体で対応していく必要があると痛感しています。

### 【市 民】

私には小学3年生の息子がおります。オタスケマンの話を伺っており、日頃からお世話になっております。見守り活動にも感謝申し上げます。

この3年間で、せせらぎ通りの川に落とされたことが1回、また上級生から後頭部を押さえつけられ、顔面をアスファルトに押し付けられたことが1回ありました。これらを学校に報告した際、関係生徒や先生方との話合いで終わってしまいました。もちろん、被害や加害の事実は理解していますが、学校全体の教職員にもこの状況を把握していただきたいと考えます。また、各家庭の保護者や地域の皆様にも情報を共有し、安全に対する意識を高めていただければと思います。地域の方々が見守ってくださっている中で、情報が行き届かないのは問題だと感じます。子どもたちが安全に成長できる環境を大人たちで見守るために、情報を風通しよく共有できる仕組みが必要だと考えています。

### 【議 員】

学校の問題は、地域で十分に共有されていないという点が重要です。せせらぎ通りが危険であるという情報は、多くの方々から耳にしています。危険な場所は各校区に多数存在しています。

### 【市 民】

私は永山に居住しており高校の教員をしております。隣席の生徒は当校ダンス部の部長であり、私は顧問をしています。今日はこの生徒に誘われてここに来ましたが、これは子どもが主体性を発揮している良い例です。

子どもの主体性を育む社会にするには制限が多く存在し、そのような環境になっていません。大人たちは子どもを育てる際に、周囲から文句を言われないように様々な制約を設けているため、結果としてそういう状況になっています。

駅フェスについても、南高のダンス部が活動を始めたのがきっかけです。高校のネットワークを活用し、これを持続させたいと考えていますが、恐らく校長先生からはとがめを受けるでしょう。しかし、何かをしなければならぬのです。こうした子どもたちを増やし続けることが重要です。小学校や中学校でそのような活動が広がれば、大体解決するのではないかと思います。

## 【市 民】

その高校3年生です。主体性について先生からお話がありましたが、私自身、多くのことを感じています。学校で主体性を育てようとする中で、様々な制約があり、「これがダメ、あれがダメ」と言われることが多いです。私は道北管内の高校ダンス部のネットワークを推進しており、小中学生を対象に高校生がダンスを教える交流イベントを企画しました。しかし、その費用は高校生の実費負担となり、責任も学校側から学生に求められています。これが主体性を育む上で本当に正しいのか、疑問に思います。

そのためには、行政と学校が連携し、先ほどの事例にあったプレーパークやオタスケマンのような方々とのつながりを大切にしていくことが重要です。旭川のイメージが低下している今こそ、学生が主体となり地域に貢献することで、より良いまちづくりが進み、地域の体験格差が解消されるのではないかと考えています。

私は5歳からダンスを習い始めましたが、続けるのが苦手で、長続きしない方です。しかし、幼い頃からその楽しさを理解することができ、続けてこられたのだと思います。また、ダンスを通じて旭川を更に盛り上げるために、私たちが何をできるのかを考えるきっかけにもなりました。

## 【議 員】

先日市議会でもダンスを盛り上げるための意見が出されました。子どもたちや児童生徒が主体的にまちおこしに関わることはとても重要であり、今後ますます求められると実感しています。教師や親が子どもたちに寄り添い、共感することで、主体性が育まれると感じています。子育てを通じて、その重要性を強く感じています。

先ほどせせらぎ通りの話がありました。実際、真夏になると、児童や生徒たちはせせらぎ通りで裸足になったり、靴を履いたまま水に入って帰ってくるのがよくあります。

浅瀬であり、大きな川ではなくて、学校の通学路の一部に沿って流れているため、私の息子もその場所に入っていました。気がついたときには、ずぶ濡れになって帰宅しました。このような体験はプレーパークにおいてはとても良いことかもしれませんが、けがや衝突といった問題も考慮しなければなりません。先ほど少し残酷に感じる話もありましたが、学校が主体となって情報を共有することも重要だと感じています。

息子が通っている学校は、地域の情報共有のための「マチコミメール」というシステムがあります。地域と警察などが連携し、保護者に重要な情報を提供する機能を持っています。特定のケースでは、情報が伏せられ、後になってから明らかになることもありますが、このような情報の共有は非常に重要であると感じています。また、せせらぎ通りの安全についても、児童や生徒の安全を見守る「オタスケマン」の活動が行われていますので見守っていただきたいと思います。

## 【議 員】

現在の学校教育が主体性を奪っているのではないかと、私は学校現場での経験から常々感じていました。子どもたちが「先生、決めてください」と言う姿を見て、改めて考えさせられました。彼らは「どうしたらいいですか」と尋ねますが、それは本来彼ら自

身が決めるべきことです。子育ての中で、決定権を与えていなかったのかもしれませんが。

このような経験から、私が担当した学年やクラスでは、子どもたちに多くの決定をさせる機会を提供することが重要だと考えていました。私のクラスでは、子どもたちが自分の席や班を決めることにしていました。私のクラスだけ異なっていました。

このような方法に対しては多くの批判もありましたが、子どもを信じて任せることができない大人が増えているのではないかと感じています。現在、学校や地域のそれぞれの役割について、皆が真剣に考える必要があると思います。

## 【市 民】

旭川で自立援助ホームを運営しています。現在、男女合わせて6名の入所者がいます。その中で5名はヤングケアラーで、2名は高校を中退して働いています。1人の女子は中学生の頃からアルバイトを強いられ、その収入では足りずにパパ活を行っていました。その影響がなかなか抜けず、旭川の駅裏で他の子どもたちや高校生とともにパパ活を続けており、何度も警察に補導されています。

私は旭川にも多くのヤングケアラーが存在し、学校を辞めざるを得ない子どもたちがいることを議員や市民の皆様にご理解していただきたくて本日参加しました。入所している子どもたちは、生活費をアルバイトで賄っているため、お金が非常に重要です。家事をこなしながら、アルバイトの収入を全て親に渡し、自分の小遣いや学費を自分で賄うことができない状況です。

かつ上げや犯罪に関与していた子どもたちが多くいますが、今はホームで生活を賄っているため、乱暴な行動は減少しています。しかし、旭川駅前や駅裏には、毎日のように多くの高校生が集まっています。その中には、19歳のいわゆる半グレと呼ばれる男性がいて、女子高生からパパ活で得たお金を巻き上げています。何度も警察に補導されていますが、彼らは賢いため、なかなか補導に至らないのが現状です。

ホームで生活している6人の子どもたちは、ヤングケアラーと呼ばれていた日々を振り返り、現在は幸せであると語っています。しかし、旭川には同様の境遇にある子どもたちが多く存在することを知っていただきたいと思います。彼らをどのように支援し、救い出すことができるのかを議会でも考慮していただきたいと願っています。

## 【議 員】

ヤングケアラーの問題は、議会において何度も取り上げられています。しかし、実態がなかなか明らかにならないという現状があります。表面化すれば理解できることも多いのですが、そこに至らない子どもたちが多数存在するという事実は、私にとってもとても深刻な問題です。恐らく、学校や家庭の状況が見えにくいいため、子どもたちの様子を把握することが難しいのです。彼らがサインを出している場合でも、それに気づかないことがあるという問題も考えられます。

## 【議 員】

私は5人兄弟で、兄弟姉妹で大きな年齢差があります。小学2・3年生の頃から、8、9年間、両親が自宅にいない状況が続きました。子どもたちの面倒を見るのは私の役割

でしたが、地域の人々に助けを求めることができませんでした。私たちの家は町内会や子ども会に参加していなかったのです。

通学中にいつも同じ服を着ていたり、言動に異変が見られる子どもたちに、地域の方々が目を向けてくれることが重要です。旭川には子ども総合支援センターがあり、何か変だと感じた際には相談や通報を行うことが大切です。これにより、家庭への支援や、子どもたちの居場所を見つける手助けが可能になります。ここにいる皆様だけでなく、更に多くの方々にもこの重要性を広めていくべきだと考えています。行政もこの連携を強化する必要があると感じています。

### 【議 員】

私もヤングケアラーの子どもたちと接する機会があり、夏に羽毛のセーターを着ている姿を見かけ、近隣の方々もその状況を理解し、児童相談所などに相談を行いました。しかし、親が子どもを手放すことに抵抗を示されていました。ヤングケアラーの実態については、岐阜県などで実態を調査するために視察を行いました。ある学校では警察が介入し、会議が開催されるなどの取組もありましたが、旭川市においてはようやく実態把握が始まったところです。実際にこの施設で関わっている方々の意見は、私たちにとってとても重要です。ただし、私たちが知らない、意外な場所に、もっと多くの子どもたちがいるかもしれません。

近隣の方々だけでなく、学校や病院など様々な視点から、子どもたちの置かれた状況に対して、目が向けられていると感じます。どのように支援していくかが重要であり、市も予算を確保しながら実態調査を進め、ケアマネージャーのように個々に寄り添った支援を行う意向を市長が示していますので、その点では動き出していると考えます。

「ヤングケアラー」という言葉を多くの人が知るようになり、市民の皆さんも意識を持って取り組んでいることを実感しています。私は駅裏と呼ばれている神楽に住んでいますが、実態を目の当たりにすると心が痛み、何とか助けたい思いが常にあります。

ヤングケアラーについて声を上げていただき、感謝申し上げます。今後、行政としてこの問題に対して、私たちが議会で更に声を上げていく必要があると強く感じました。

### 【市 民】

私は以前は札幌に居住しており、旭川に転勤してから4年が経過しました。まず一つの点として、児童会館などの施設が少ないと感じています。私自身、小学1年生の時に親ががんにかかり、10歳で親を亡くしました。地域の方々や友人、知人、児童会館のような場所で遊ぶ機会が多くありました。そういった施設があったおかげで、言い方は難しいですが、道を外れずに済んだ部分もあります。また、地域の子ども会に参加していたことで、様々な大人とのつながりや地域イベントを通じて多くの体験をさせていただきました。現在は少し難しい時代かもしれませんが、町内会の機能や児童会館のような施設がもう少し活発に活動できればと願っています。児童会館を新たに建設するのは難しいかもしれませんが、地域に居場所があることは重要です。学区内に、小さな家のような場所でも構いませんので、子どもたちが集まり遊べるようなスペースがあれば良いと考えています。

もう一つは経済格差や体験格差に加えて、情報格差も存在するのではないかという点です。私も5歳の子どもがいる親として、遊び場を探す際に積極的に情報を収集しようとしていますが、意外にもそのような情報をまとめて発信している場所が少ないと感じています。公園や様々な施設、プレーパーク、大人食堂や子ども食堂など、多くの選択肢があると思いますが、あさひばしの記事を見ても、必要な情報が明確に示されていないことが多いです。また、旭川市の公式LINEに登録していますが、情報を得るのが難しいと感じることもあります。SNSを通じて、もっと市民が知識を得る手段があっても良いのではないかと思います。

もちろん、マンパワーが必要であることは理解していますが、情報が届いていない家庭や親がいるのも事実です。今回の意見交換会も、知人に誘われるまで存在すら知らなかったため、このような機会がもっと市民に広まるべきだと考えます。意見交換を通じて、地域がより良くなるための取組が増えることを期待しています。

## 【市民】

子どもたちが私たちのところに来ているほかにも、他の子どもたちの相談業務も行っているため、電話がかかってくることがあります。私たちのところに電話がかかる前に、子ども総合相談センターに相談をしているようなのですが、児童相談所につなげてくれない上に、子ども総合相談センターの方でも記録を取っていないのです。この相談内容について、何とか改善できないでしょうか。

子どもたちが知る相談先は子ども総合相談センターだけです。センターに7回も電話をかけたという子もいますが、その7回分の記録は残っていません。親からの虐待を訴え、「助けて」と言っているのに、児童相談所につなげてもらえないのです。今回、いじめの問題を契機に、センターから児童相談所への道ができたはずですが、それは、子どもにとって本当に大きな勇気が必要なことです。電話をかけるという行為は、単に「どうしたいですか」や「我慢できますか」といった質問を受けるためではありません。にもかかわらず、児童相談所にもつなげてもらえないのです。

## 【議員】

これは私たちの方で現状を調査させていただきたいと思います。

## 【市民】

私は、ヤングケアラー、駅裏の問題、パパ活などの問題に対しては、すぐに着手すべきだし、迅速に対応する必要があると思っています。高校生、中学生に関わる課題は、予算をつけて調査を行っているうちに、彼らが卒業してしまうので、早急に解決しなければなりません。市には率先して責任を持って取り組んでほしいと思います。

「そのうち」ではなく、即座に取り組んでほしい課題です。これらの問題を解決しなければ恥ずかしい思いをするのではないのでしょうか。旭川の大人としての自覚を持ち、みんなが行動すべきで、具体的に、年内や3月までに目標を設定して実態調査や組織作りを進めるべきだと思います。このまま何もしなければ、更に問題が起きるのではないかと強く懸念しています。

切迫した課題であり、最初に解決すべき問題であるはずですが。できるだけ早く対応してほしいのです。なぜそれができないのか、あるいはしようとしらないのか。先ほど述べた責任感に関わります。問題解決に率先して取り組むことが市の役割だと考えています。

やらなければならないことは非常に大きく、大人や親が責任を放棄したり、自分勝手な行動をとっている現状があります。この状況を変えなければならないのです。時間がありません。よろしくお願いします。

**【議 員】**

重く受け止めさせていただきます。

**【市 民】**

プレーパークはプレーワークというジャンルに属し、延長線上に中高生や若者のための活動の場を提供することを目的としたユースワークがあります。私が大学に通っていた札幌には「ユースプラス」という若者活動支援センターがあり、札幌市が定めた34歳以下の若者が自由に利用できるスペースが提供されています。低額で、誰でも気軽に利用できる環境が整っています。朝9時から夜10時まで開館し、旭川市の地区センターや体育館に相当する規模の施設もあります。駅直結の場所もあり、常にスタッフが常駐し、遊びに來たり相談で訪れた子どもたちのサポートを行っています。体育館を利用して自由に遊んだり、勉強をしたり、キッチンを使って料理を楽しむことも可能です。旭川市でもユースワークの必要性を感じていますが、場所の不足が課題です。

買物公園は、多くの建物が空いています。空き店舗をイベント時だけでなくロビーワークとして活用することが重要です。卓球台を1台設置することで、市の職員でなくても、教育に関心のある大学生や若者を配置し、行政と連携を図ることができます。若者からの相談を行政に伝える役割を果たし、適切なサポートを提供するユースワークの形を構築することが求められます。地域で活動したい若者や子どもたちが集まり、自分の興味を追求できる場を提供することで、同じ立場のユースワークのスタッフに気軽に相談できる環境を整えるべきだと考えます。旭川市においても、このようなユースワークの仕組みを構築することが必要だと思います。

**【議 員】**

旭川市にもユースワークセンターのような施設があれば良いと考えています。具体的には、買物公園、永山、東光など、人口が比較的多い地域にそれぞれ1か所ずつ設置する形が理想です。大規模な施設ではなく、テナント1つでもいいし、廃校舎などの利用可能な場所が市内には多く存在しています。人々が集まることで再生可能な建物も多くあると考えられますので、市としてはこれらの施設をより有効に活用し、子どもや若者が地域で活躍できる居場所を創出していくことが望ましいと思います。

**【議 員】**

地域における子どもたちの活動の拠点について考えると、観点は異なるかもしれませんが、子ども食堂を運営されている方々がいらっしゃると思います。私自身も子ども食

堂を運営していますが、その発想の根本には給食費の問題があると考えています。近年、給食費を無償化する自治体が増加している中で、本市においても給食費の無償化は重要な課題であると感じています。特に北海道では、地産地消の観点から優れた食材が豊富にありますので、これらをできる限り子どもたちに提供することが行政の責務ではないかと考えています。私自身の課題でもありますが、もし子ども食堂を運営されている方がいらっしゃれば、是非御意見を伺いたいと思います。

## 【市民】

子ども食堂の副代表を務めています。私自身、チャチャチャワールドという活動を行っており、Instagramを通じて子どもの非認知能力を育むための情報発信も行っています。個別相談等の活動も展開しており、街中の「おきしぺたるむ」という場所を借りて、親子が遊べるスペースを提供していますが、多くのお母さんたちが誰に相談すればよいのか分からず、助けを求めて訪れてきています。

市役所に相談しない理由として、相手がどのような人物であるか分からず、情報がどのように扱われるかも不明であるため、信頼できない人に対して話すのは難しいと口にしていました。私自身も幼少期に手を上げられる経験をしており、とても恐怖を感じていましたが誰にも話せませんでした。何度も学校から持ち帰った番号に電話をかけようと思ったこともありましたが、「自分の話を誰かに話すのだろうか」「親に連絡が行くのでは」と考えると恐怖心が勝り、高校生になっても電話ができませんでした。

私たちが準備をしても、来なければ何の解決にもなりません。機能していないのであれば意味がないと感じます。相談に来る親たちは「市は何をしているのか、何にお金を使っているのか、市議になって教えてほしい」と言われます。私はとても制約が多いと感じているので市議にはならず、情報を知った上で周りにお知らせしたいと考えています。議員の方も含めて様々な方々と関わりながら活動している中で、同じ目標を持つ人々が多くいることを知りました。しかし、進展のスピードが遅すぎると怒りを覚え始め、個人事業主になった方が早いのではないかと思い、活動を始めました。

現在、3年目を迎えています。おきしぺたるむで活動している他の団体が多く、様々な分野で自分の得意を活かして取り組んでいます。民間の方々は非常に熱心に、迅速に行動しており、旭川ではいじめや自殺の問題が深刻で、学校に行けない子どもたちが多数存在しています。皆がこの状況を理解している中で、積極的に動いているのは民間の人々であると感じています。私もその一員として、問題の深刻さを認識しており、期限を設けて行動することが重要だと考えています。この会が終わった後も、また同じメンバーで集まって進捗を確認するなど、予算の使い方や今後の方針について話し合う必要があると思います。市や市議会もそれぞれの役割を果たした上で、民間の人々に協力を求めるべきです。そうでなければ、私自身も行動に移せないと感じています。非認知能力の検定を受けた経験から言えることですが、出会う教師たちに非認知能力の重要性を問うと、ほとんどの人が答えられません。

また、自主的な子どもを育てるための授業内容についても、具体的な答えが得られないことが多いです。保育士たちも、古い教育方法に固執しているように思えます。公開保育や研修を行っているにもかかわらず、子どもたちの生きる力や非認知能力を育む取

組が不足しています。

4月から新たにプレーパークの常設のような居場所を作る計画を進めており、現在仲間を募集中です。しかし、「おきしぺたるむ」に関しては、家賃や光熱費が毎月約10万円かかり、みんなで分担しています。資金が不足している中で多くの人が活動したいと思っているのに実現できない状況について、旭川市の見解を伺わなければ私たちは納得できません。その内容を何月何日に発表するのか、今日いるメンバーに知らせていただきたいと思います。これが私の要望の要約です。

## 【議 員】

どのように進めるかについては慎重に検討する必要がありますが、皆様から頂いた厳しい御意見には誠実に対応しなければならないと考えております。その点についてはしっかりと受け止めさせていただきます。

### まとめ

意見交換会の当日は、永山第三地区市民委員会会長及び旭川冒険遊びの会代表の方より活動内容を発表していただきました。また、子どもたちの居場所づくりなどに関わる多くの団体の方に御参加いただき、日頃から子どもたちが生き生きと遊ぶために工夫されている内容など貴重な御意見を沢山いただきました。

なかでも旭川市は子どもの居場所が少ないという御意見があり、不登校支援、中高生の居場所づくり、旭川市内の大学などとのコラボなど旭川市全体で子どもたちの遊び環境や体験づくりをしていきたいなどの希望あるお話もありました。さらに複合的な居場所づくりを目指す内容の御意見や札幌市の若者ユースセンターなどのお話があり、常任委員会として若者支援総合センターの視察を予定しております。

当日は、子どもたちとの関わりについて貴重なお話をお聞きすることができ、心より感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

当日写真





## テーマごとの記録

# 《旭川市の救急医療体制について ～持続可能な救急医療体制に向けて～》 (総務班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載しておりません。

開催日時		令和6年11月14日(木) 午後1時30分～3時30分			
出席議員	班員	代表	えびな 安信	受付	松田 卓也
		司会・広報	塩 尻 英明	受付	まじま 隆英
		資料作成・勉強会	皆 川 ゆきたけ	受付	上 野 和幸
		資料作成・勉強会	植 木 だいすけ	記録・広報	たけいし よういち
正副議長		議長	福居 秀雄		
参加者数		31人			

### 意見交換の主な内容

#### 【市民】

私の孫が重度障害者で、以前に何度か救急車にお世話になったことがあります。毎回同じ救急車の方が来るわけではないので、来るたびに孫の状態を事細かく説明しなくてはなりませんでした。

時間がとても無駄になるのではないかと、いち早く運んでいただきたいという思いがあるのですが、情報共有を毎回しなくてはならないということなので、個人情報の問題など様々あるかとは思いますが、重度障害者の場合は情報をデータ化して、こういう子がいるということ把握して来てもらったらスムーズに行くのではないかと感じました。

#### 【議員】

私も先日、救急車で運ばれた方が市立病院に情報があるはずなのにもう1回同じことを聞かれたというような話を聞いたことがあります。

名前や年齢などは、患者の取り違いがないように、電話だとか口頭で確認しなければならないと思いますが、今、マイナンバーカードが保険証の代わりになってきています。医療機関で読み取れば、その患者さんの情報がすぐに出てくるような状況にもなっていると思います。

今後、その情報管理が進んでくると、救急車でどれだけ扱えるかというハードルはあるかと思いますが、こういった利用者があるということ把握しやすくすることはできていくのではないかと考えています。

旭川の医療体制の中で、救急車にマイナンバーカードの読取装置を配備するだとか、ここでお約束はできないのですが、おっしゃったように、よく利用される方の情報伝達をしっかりとされた方がいいのではないかとということで、受け止めさせていただきます。

【市 民】

救急車の情報管理ということだと思いますが、この関係でマイナンバーカードが搭載されれば情報が早く行くというのは良いと思います。

同じように過去にあったのですが、どこの病院に行っていますかとか、どこで対応していますかとかを救急隊にまた説明しなくてはならないということもありますし、私の妻の母が認知症なのですが、病院がたらい回しになったことがあったので、認知症の対応については病院の方が大変なのか、医者が必要なのか、人員不足ということがあるのかもしれないですが、市としてはどのようにバックアップしていくのか、医療体制の先生方の増員や救急班の増員など、そういうことの展望としてどのようなお考えがあるのでしょうか。

【議 員】

意見交換会でそのような御意見をたくさん承ることが多いのですが、我々は今回委員会のメンバーとして参加しており、市としてこうしますということは、この場で申し上げることはできませんので、それを踏まえた回答ということで受け取っていただきたいと思います。

【議 員】

私たちは議員であり、その道の専門ではないので、なかなか明確な答えはないのですが、救急隊の方は応急処置ということで動いておられて、本来、医師の医療活動ということとはまた別に考えていかなければならないのだと思います。

かかりつけ医の情報と、急きょ駆けつけた救急隊員の間での連絡のやりとりということについては、先ほど話があったように、マイナンバーカードがこれから活用されていくのだと思いますが、どこまで個人情報情報が救急隊に流れるのかということは非常に難しい問題であると思います。

その辺りは議会としても一つの課題として、市の対応と個人の情報とがどこまで近くなるのか、今後協議していかなければならないと思います。

何度か救急車を呼んだことがあります。なかなか病院が決まらない、質問がとても長くなる、救急車が動き出し病院へ向かうまでの時間が非常に長いと私自身も感じていますので、今後所管の部署と協議しながら、市としてできることにはどんなことがあるのかということを検討していきたいと考えています。

【議 員】

だんだんと様々なものがICT化されており、地域によっては、実験的にAIを使ってどこの病院に行けるのかという実証実験を行っているところがあったりします。旭川市議会の中でも本会議や委員会ですらそういうものを活用して、たらい回しにならないよということの議論は出てきているので、今後少しずつ最先端の技術を取り入れながら、変わっていくのではないかと考えています。

**【市 民】**

高齢者福祉の現場で働いている者ですが、先ほど認知症という話もありましたが、高齢者の方が、不安や認知症の中で、119番や110番されるという事例を現場ではかなり目にします。

それが本当に必要な出動かどうかというと、かなり疑問であり、それが繰り返されることで、自宅での生活ができなくて、施設入所を考えるきっかけになるというようなことも見られています。

そういった高齢者をどう地域で守っていくか、担当のケアマネジャーを含め、地域包括ケアの中でどう見守っていくか、このひっ迫した救急体制に影響を与えないようにどう取り組んでいくのかということが今後必要になってくるのではないかと思います。現場の報告みたいな形になってしまうのですが、今後に期待したいと思います。

**【議 員】**

超がつく高齢化社会が来ている段階だと思いますが、認知症の方も増えている中で、救急隊の対応が必要なものかどうかはなかなか分かりません。

搬送されて、医師の診断を受けて、そのときに軽症だったり重症だったりという判断がつくと思いますが、軽症事例を減らしていくことが今後求められていくのだと思います。

独居の高齢者がかなり多くなっている中で、先ほど地域の見守りという話が出ましたが、これが一つのキーワードなのではないかと思いますし、そこで救急体制を疲弊させない取組が必要だと思います。

見守り体制を強化していくことも一つの方法だと思いますが、プライバシーのことなども関係してくるので、なかなか明日からこうしますというように簡単にもいかないことなので、協議をしながらどこまで進めていけるのか、検討が必要だと思います。

**【市 民】**

ニュースの記事で、今年の6月1日から三重県の松阪市で、救急車で運ばれても入院に至らなかった場合には、費用を支払ってもらうという記事が出ていたと思います。

記事の最後は、普段と様子が違うときにはためらわずに119番通報をしてほしいとなっていたのですが、救急出動が重なることで、救急車が早期に患者のもとへ到着できないということで、助かるはずの命が助からなくて、早期治療ができなくなるといったことも考えられるようで、救急車の適正利用が必要と救急に携わっている方がおっしゃっているようなのですが、旭川市でも有料化するなどの議論はされているのでしょうか。

**【議 員】**

この会の準備に当たって理事者と意見交換をする中で、実際にそのような自治体も出てきているという状況は把握していました。

しかし、おっしゃったとおり、お金がかかるからということで救急車を呼ぶのをためらわれて、その結果命が失われるということはあってはいけないと思います。なので、その辺も慎重に議論していかなければなりません。今、旭川市の中で有料化していこう

という動きは特段出ていません。

今回、我々はなぜこのような意見交換会をやっているのかというと、やはり自助・共助・公助の中で、持続可能な医療体制を確立していかなければならないと思っており、今回の配付資料でも、こんな場合は呼びましょう、というように、細かく示せるものがあります。

普段から、こういうときは救急車を呼んだらいいということは知識として身につけていただいて、御自身が呼ぶか呼ばないかという判断をする際の参考にしていただいても構いませんし、この場に出てこられた方は、医療に対する探求心や勉強する気持ちを持っていらっしゃる方なので、是非周りの方にこういう場合は呼ぶべきだということを伝えていただければと、逆に我々のほうからもお願いさせていただきたいと思います。

#### 【議 員】

茨城県の方でもこういった事例があったようです。

救急車を呼んだら最も高い病院で1万3,000円ぐらい取られたということで、軽度な切り傷で呼んだ場合や虫刺されとか、そんなに症状がないような状況の場合でお金を取るということがあったということでした。もしかしたら少しずつ全国的に増えてきている状況ではあるのかと思いますが、まだ旭川市としてはそこまで至っていません。

#### 【市 民】

旭川市ではまだそんなにひっ迫していないという話ですが、実際は救急車の出動件数が平成元年から令和5年にかけて3倍に増えているという上昇原因は分析されているのでしょうか。

それに関わる財政の支出が増えていることの追及はどうされているのでしょうか。

#### 【議 員】

コンビニ受診も増えてきたところ、コロナ禍で受診控えがあって、一旦、谷間が来たけれどまた伸びてきているというところですが、今日のテーマでは、持続可能な救急医療体制を構築して、そのまま続けていくにはどうするのかというところがあります。

配付資料にあった鷹栖町や上川町は、救急医療体制を連携してやっているところがありますが、令和3年度から旭川大雪圏域連携中枢都市圏というものを、周辺8町とともに続けています。

このように鷹栖町や上川町だけではなく、周辺8町にも広げた上で、大きくなっている需要に伝えていく。また、先ほど話があった、救急車を呼んだらお金を取られるというようなことがないように、大雪圏域でしっかりと連携しながら医療体制を構築していこうということも、急性期医療に関して周辺8町と連携を結んで融通し合おうというようなことができてきていますので、高いから救急車を呼ばないでおこう、灯油が高いから暖房を使わないでおこうというようなことになってはなりませんので、市議会としても、持続可能な医療体制の構築に向けてしっかりと議論を深めていかなければならないと思います。

先ほど話があった認知症の方であれば、例えば福井県の福井市では、かかりつけ医や

投薬などの情報を集約するような救急医療情報キットを年配の方々にお配りして、これを救急隊が見れば情報共有できるということを行っています。

キットに記述するという作業を民生委員が行ったり、役所の方が行ったりということもあるのですが、自助努力で何としても命を守る救急体制を守っていかなければならないというのが議員全員の共通の認識だと思いますし、旭川市単独では難しいところは、周辺8町で融通し合いながらというところもあると思います。

是非皆さんとともに手を携えて、しっかりとこの先を考えていきたいです。

## 【議 員】

平成元年から令和にかけて、3倍に増えるまでにその間30年ぐらい経過しています。

当然、その間に国の世代構成が変わってきており、高齢化率が高まり、超高齢化社会になっているということが、一つ要因にあるのと、先ほど話があったコンビニ受診といいますか、それほど症状が重くないのに何となく救急車を使ってしまうということが広まってしまっているという状況もあるかと思えます。

実際に、令和2年の消防庁の統計では、救急搬送された半数が軽傷だったという統計もありますので、その意識をもう少し国や旭川市で市民の方と共有することがまずは大事なのではないかと思えます。

その上で、それによって、本当に受診すべき人が控えてしまっただけでは元も子もないので、我々も今回初めて知ったことがたくさんありますが、市としてもっと啓発・啓もうしていくことが大事だと思います。

消防の方々も必死で動いていますし、救急車の到着時間を見ると、この雪国の中で旭川市は全国と比べて早い年が何年もあります。

とても頑張っている方々がいるのに救急隊や警察の方がコンビニで御飯を買っていたらクレームが入るみたいな世の中ですから、許容できる部分、理解できる部分を増やしていかなければならないと思えました。

## 【議 員】

3倍ぐらいに増えているということは、統計上見て分かることだと思います。

配付資料に、入電時間別搬送人員がありますが、8時から18時までの時間帯の搬送人員が多いということが書かれています。8時から18時は基本的に医療機関に受診をする時間と重なっていますので、自分の足で行けないという状況が背景にあると思えます。

救急車を使うような場合もあるとは思いますが、そうではない方が自らの足で受診に行ける、例えば公共交通の充実などの部分も必要になってくると思えます。

夜中に急に不安になったとかで、受診したいということもあるかと思えますが、まずは医療機関がやっているときに足を運べるような環境をつくっていくことが、救急搬送を減らしていく一つの方法ではないかと思えました。

## 【議 員】

私もここ10年以内に4回か5回ぐらい救急車を呼んでいます。市民の方は呼んだらすぐに救急車が来ると思っただけの方が多いです。

目の前で自転車と車がぶつかって、歩行者の方が先に電話してくれたので良かったのですが、そこで救急車がすぐに来ないことに困っており、「いや、そんなにすぐ来ないですよ」という話で、自転車の方の対応などをしましたが、結構知らない方が多いです。

救急医療体制とか、救急車がどういう流れで来るとか、そういうことも今後様々な形で市民の方に伝えていくことも私たち議員の責務の一つだと思いますし、市の方でもしっかりと市民の方に伝えていくことも、仕事であると思いますので、今後様々な議論を踏まえながら様々な方に知っていただくことにも努めていきたいと思っています。

【市 民】

こういった場もすごく有意義に感じているのですが、救急の現場で困っていることなども市民に教えていただければ、私たちが生活していく中で何に気をつけたらいいのか、路上駐車も大変だと思いますが、現場がどういうことに困っているのか、我々がどういうことを求めているのかを意見交換できると、更に充実するのではないかと思います。

【議 員】

今後市民として協力できることは何かということの一つとして、昨日、市民委員会の交通部長になっているので、パトライトで交差点に立って交通指導したのですが、その間に救急車が2台通り過ぎました。その際の車の動きを見ると、昔は救急車が来たときには一斉に隊列を端のほうに寄せるマナーで進んでいたと思いますが、見ている限りスムーズにいかず、救急車がなかなか抜けていけないというような状況が見られました。

市民として、命に関わることであるという意識を持って、どのようにして救急車を通そうかということを、それぞれ考えていかなければならないと思いました。

【議 員】

救急車を呼んだことや乗ったことがあるという方は結構いらっしゃいますね。

私たちも、これから市民サービスとしてこうやってほしいとか、何か問題点や課題点があれば、市の方に伝えて直してもらったり、取り組んでもらいたいということを伝えていくので、皆さんが救急車に乗ったり呼んだりしたときに、こういう不具合だとか、もっとこうだったらよかったのという御意見があればお聞きできればと思うのですが、何かそういった経験で感じたことはございませんか。

【市 民】

救急車は早く来ていただいたのですが、搬送先が見つからないことがありました。

私の母なのですが、救急車に乗って1時間、年末ということでたくさん重なっていたところがあったと思いますが、時間がかかり過ぎ、母がトイレに行きたいということで1回家に戻って、それから搬送されたという経緯がありました。

消防隊の方々は雪の中早急に駆けつけてくださる中で、受入先の準備等が足りなくて、その時は外科だったのですが、内科の当番医でようやく受け入れていただいて、すぐけい椎骨折だったと分かって手術になったのですが、本人も心配ですし、我々家族も非常に心配なところがあったので、そこをスムーズにいく形にしていきたい。

搬送先への時間については、救急車がとまっていると他の案件に影響があると思うので、うまくやっていただけるような、指示センターの統一や病院との連携ということができれば良いと思いました。

#### 【市 民】

旭川にはドクターヘリがあると思います。

先日、旭川赤十字病院に行ってドクターヘリを見てきたのですが、すごく良いことだと思うので、財政面では結構費用もかかると伺ったのですが、命がかかっていることなので、是非とも続けていただきたいと思いました。

#### 【議 員】

ドクターヘリは、車だと数時間かかるようなところで、旭川でなければ診療を受けられないような事例でも、10分とか20分ぐらいで到着するということです。

旭川は旭川市だけの医療ではなく、上川中部や北部など道北に行くとも医療機関が少なく総合病院や大きな病院がない中での役割があります。日本の人口減少社会において医療機関の問題もある中で、救える命という部分に対してしっかりとドクターヘリで対応できるような体制が必要だと思いました。

国の在り方の部分にも関わって、ドクターヘリについて我々もしっかりと勉強していかなければならないと思いました。

#### 【議 員】

興部町の山あいの酪農家をやっているところの方が農業用機械に挟まれてしまい、ドクターヘリで旭川へ運ばれたことがありました。1分1秒争う生死に関わる状態のときに、速やかに医療機関に届けられるのがドクターヘリです。ドクターヘリがなかったらその人は助からなかったのだらうと思っています。

今、我々の旭川にある当たり前の医療体制というのは、オホーツクや宗谷でいうと全然当たり前ではなくて、斜里町では子どもが産めないのです。出産で網走まで1時間ぐらい車を走らせなければいけないので、予定より早く破水すると緊急で隣町どころではなく遠くまで走っていかなければなりません。オホーツクでは北見市が医療の中核都市ということで、そこまでどれだけ救急車を早く走らせられるかということで、高規格道路の予算がついたりしています。

旭川も道北や道東、オホーツクの医療体制を担う中で、中核機関の砦としての機能も備えながらも、医療体制はひっ迫しています。夜間の診療体制や当番の体制を整えるだけでも、医者と看護師にその時間まで残ってもらわなければならない、給料も払わなければいけない。その中でどれぐらいの人が夜間診療に来てくれたか。夜間診療は診療報酬が少し高いのですが、1人、2人しか来ないのにみんなのために病院を空けている。担い手にも大変負担があり、医療体制も人が少なくなってくる中、決して明るいとは言えません。

だからこそ、我々も救急医療の使い方や救急車の呼び方などをしっかりと考えていかなければいけないと思います。

【議 員】

議員になってから3回救急車で運ばれています。低血糖症で血糖値が下がると目の前が真っ暗になって倒れてしまうのです。あめ玉でもなめるとすぐに回復するのですが、周りの人たちがびっくりして、救急車を呼んでしまうのです。運ばれたときに救急隊の人が、私が議員だということを分かっている、要は私に「新しいのに変えてくださいよ」というような雰囲気、「あまり乗り心地よくないでしょう」と言ってくるので、お世話になった後、消防長に「どれぐらいの年数なの」と聞くと「もう納車後13年が経過して更新時期に来ているのですけどまだ使っています」と言われました。

夏場で普通に運転していても乗り心地が悪いので、冬道だったらもっと患者さんが不便というか気持ち悪い思いをするのではないかなと思い、消防長に「すぐ予算つけて交換してあげてください」と言ったら、次の年から交換されたという報告を受けましたので、議会としてできる形の一つの例をお話しさせていただきました。

ドクターヘリに関しては、旭川赤十字病院から発進しますが、格納庫は旭川医科大学にあり、年間400件以上の出動要請があります。最初は北海道の案件で釧路市に1機置く予定だったのですが、十数年前に旭川市と釧路市に配備してもらい、遠くの場合は途中で給油して、稚内や紋別、網走方面に対応できるようなシステムになっています。

本当に急を要する、大けがや生死に関わるときに利用するのがドクターヘリということですが、今はドクターカーというものもあり、救急体制の中でこれから取りそろえていくのではないかと考えています。

【議 員】

私も救急車に乗った経験が3回ありますが、やはり冬道に乗ったときには、こんなに乗り心地が悪いのかと思いました。母親の付添いで乗ったのですが、横の席に乗っていても頭が天井にぶつかるくらい揺れて、これは患者さんも大変だなと感じました。

今、議員が話したことについても、議員としてやれることの一つなのだとすることは勉強になりました。

今日は救急のことなので、救急車とか救急隊の話がメインになってきましたが、救急車が来てから病院に行くまでの間の時間が長くなっている傾向は、医師や医療関係の事情もあるのではないかと思います。当番医を受ける病院が少なくなっていることや、医師の高齢化、医師の働き方等が大きな問題となって、なかなか受入先が見つからないということが一つの原因であると思います。

そのような中で、私たち議員はなかなか力が発揮できないところではあるのですが、課題を旭川市医師会とも共有する機会を持ちながら、旭川市にとって何ができるのか、救急の方と医療体制の方ともう少しコミュニケーションを取りながら進めていくべきだと今日の意見交換会を通じて感じました。

## 【まとめ】

総務常任委員会の委員で構成する総務班では「旭川市の救急医療体制について～持続可能な救急医療体制に向けて～」をテーマに市民と議会の意見交換会を開催し、皆様から貴重な御意見を頂戴いたしました。

総務常任委員会としては、旭川市消防本部管轄の救急業務が所管ですが、救急車の搬送先や、一次、二次、三次救急、夜間対応などにも範囲が及ぶということで、旭川市医師会や保健所の協力も得て勉強会を行い、委員会としても更に理解を深めることができました。

当日は参加者より、救急車を呼んだ時に持病や障害について説明する手間を省くために救急隊員と病院で患者情報を共有してほしいということや、搬送先が見つからないときにたらい回しにしないよう市でもバックアップしてほしいということ、高齢者が不安や認知症で119番通報し、周囲に影響を与えてしまうことについて地域でも見守り体制を構築する必要があるのではないか等の御意見を頂戴いたしました。

持続可能な医療体制を構築していくため、頂いた御意見を参考にしながら、今後の議論を行ってまいります。

## 当日写真





## テーマごとの記録

# 《インクルーシブなまちづくり》 (民生班)

※テーマと異なる内容の意見交換については掲載していません。

開催日時		令和6年11月15日(金) 午後6時30分～8時30分			
出席議員	班員	代表	高橋紀博	受付	杉山允孝
		司会	石川まさゆき	受付	能登谷 繁
		資料作成・勉強会・記録	小林 ゆうき	受付	中野 ひろゆき
	受付	金谷 美奈子	記録	沼崎 雅之	
	正副議長	議長	福居 秀雄		
参加者数		41人		欠席議員	安田 佳正

### 意見交換の主な内容

#### 【市民】

私は、障害のある当事者の活動や交流の場などで、ボランティア活動が活発にできたら良いと思っています。

当事者活動でも、私は、年に1度、地域のごみ拾いの活動をしておりますが、障害のある当事者が活動できる場がもっと盛んになることを期待しております。

#### 【議員】

ボランティア、交流の場もそうなのですが、まちの中で障害者が当たり前で生きている、活動できるようにしていくというのがとても重要だと思うので、御意見をしっかりと受け止めたいと思います。

#### 【市民】

私は障害児童の分離教育について非常に気になっております。

子どもはとても柔軟性を持っています。子ども時代、学生時代に、障害に限らず様々な特徴を持つ子ども同士が一緒になって過ごすことで、どんな人とも一緒に生きていくという価値観を身につけていくと思います。

私の息子は重度知的障害かつ自閉症ですが、普通学級で中学時代の3年間を過ごさせてもらいました。その中で友達や大人と関わり、一緒に過ごしていくのだというまなざしで、一緒に生きていくことを当たり前にします。どうやったら一緒に過ごしていけるのかという工夫やアイデアを、みんなで考えていけるのです。

合理的配慮といいますが、そんな言葉を知らなくても自然にそのような形をつくっていている子どもたちを目の当たりにしてきました。

今、支援学校・支援学級と子どもが分離された場所に行くことが当たり前になってい

ますが、自分と違う性質を持っている人は別の場所に行くのだという価値観の植付けになるのではないかと思います。

どこから手をつけて良いのかということは難しいことですが、学校の在り方、普通学級をどうしていくかということ。また、みんなと一緒に過ごしたい、地域の学校で過ごしたい、普通学級で過ごしたいと希望を持つ本人、保護者の意見をしっかり聞いていくことが今できることだと思います。

私は相談を受ける立場として、残念ながら、そのような体制はできていないと感じています。

#### 【議 員】

よく分かります。大人になっていきなりみんな一緒に暮らしましょう、障害を持つ方も地域と一緒にという国の方針が示されたとしても、学校時代、幼少期の頃から分けられていますから、様々な方がいるという経験がないのだと思います。

分からないが故に、様々な不安を覚えるということもあると思いますので、どこから手をつけて良いか分からない、大変大きな問題です。

私は一つ一つのニーズを掘り起こして対応していく必要があると思っています。

入学前後の時点で、普通学級で学校生活を送るという意思をお持ちの保護者とお子様への対応を、議員としてしっかり見ていかなければなりません。それを学校教育のほうにも、要望していかなければいけないと感じました。

#### 【議 員】

入学するときに特別支援学級が前提になっているということがありますよね。

本人や家族が選び取っていく、権利としてどうしたいかを決められることがインクルーシブ教育だと思いますが、実際はなかなかそうっていないと思います。

最終的には地域で暮らしますので、地域の中での多様性の中で暮らしていくことになります。学校だけ違うということがなかなか受け入れられない状況ではないかと思います。残念ながら、体制がまだとれていないのが実態です。

国のほうは中教審でインクルーシブ教育を進めますと言ってはいますが、それに見合う体制、特に教員の配置やお金は特につけていません。

そこを突破することが必要だと思いますし、国はもちろん、地域や自治体の中でもそういう声をしっかり上げながら、変えていくという努力を私たちも一緒に続けなければならないと思います。

#### 【市 民】

35年ぐらい通常学級で教諭をしています。3年間障害児の担任をさせていただきましたが、とても楽しかったです。入学前は絶対無理だとか、いじめられるとか、1人になってしまうのではないとか、様々なマイナスイメージや意見がありましたが、3年間過ごした中で、毎日がとても充実していました。

心配されるようなことはなく、逆に良いことばかりがありました。今問題になっているいじめとか不登校の問題も、そういう子がクラスにいと、きっと解決されていくだ

ろうと思っています。

一緒に育った生徒たちも、みんな優しくなり、彼も一緒に過ごす中で、1人の中学生だという意識になりました。最初は重度知的障害と言われていて、検査では3歳程度とされているのですが全然そんなこともなく、修学旅行も同じように参加しました。

もう少しで20歳になるのですが、仲間たちも本当にいっぱいいます。

今までのクラスも立派でしたが、障害のある子と関わる姿を見て、あの子も優しいのだなと理解して、それぞれの生徒が生き生きとしたクラスになりました。

## 【市 民】

私は中学校まで障害を持っている子と一緒に過ごしていましたが、周りは彼について、やってもいないのにできないと言うことが多かったです。でもできることはいっぱいあって、一緒に学校生活を送っていて気づくことがいっぱいありました。

日常生活、学校生活自体が楽しかったです。イベントがなくても日常生活が楽しくて、受験シーズンとかぴりぴりした空気を和ませてくれました。彼は誰かの手助けがあって当たり前といった感じなのですが、私たちも誰かの助けはないとやっていけません。そのとき、誰かに助けてと素直に言える環境をつくってくれたと思っています。

## 【市 民】

一緒にいることで様々なことに気がついて、私のクラスの子たちは、卒業する頃には、彼が障害者という意識は全くありませんでした。1回作文で彼をどう思うか書いてもらったことあるのですが、みんなが、「彼は彼じゃん」みたいな形で答えて、40人いたクラス全員が良いことばかりだったみたいなことを書いていました。

できないことはもちろんあるのですが、障害特性から来ることにはみんなとても優しく手伝ったりしますが、社会的に許されないことについては同じように注意しています。

結論としては小さい頃から一緒にいることで、当たり前になっていく。それが本当にインクルーシブなまちをつくっていく元だと思います。

ただ現実では障害がある方が学校に入ってくると、例えば車椅子一つにしても、大変だという話になります。

あちこちでお話ししても、お金もかかるし人も必要だと、最初に言われるのですが、そんなことばかりではないと思います。僕らも全くの素人でしたが、目の前に彼がいて、毎日一緒に過ごしていると様々なアイデアも生まれ、楽しい3年間でした。

## 【議 員】

障害者でも活躍できる活動の場が、もっと必要だと、つくってほしいというお話がありました。また、分離をしない教育をしっかりと進めていくべきだというようなお話もありました。どれも大事なお話だと思います。

特に、このインクルーシブなまちづくりを進めていくためには、1人でも多くの市民がインクルーシブに対して、しっかりと理解を深めていくことが必要だと思います。

そういった意味では、様々な障害を持っている方や、LGBTといった性的なところに関してもしっかりと理解を進めていくということがと重要だと思います。また、若い

年齢の方だけではなく、高齢化率35%を超える旭川市においては、高齢者にも住みやすいまちといったこともインクルーシブなまちづくりになっていると思っています。今日のような意見交換は非常に重要で、今この空間がインクルーシブな印象を受けました。

具体的に教育の場面は重要だと思っています。平成26年に、学力日本一と言われている秋田県東成瀬村に行政視察に行きました。人口2,500人ぐらいですが、幼稚園と小学校連携、一貫教育をやっており、小・中学校についても、一貫教育をやっていました。障害を持つ子どもたちも普通教室と一緒に学んでいる姿を実際に視察しました。

普通の教員のほかに、障害者を補助する先生も教室に入っているのですが、障害者から普通の子どもが学ぶことも多いというのを勉強させていただきましたし、障害を持っている方についても健常者から学ぶことも多く、お互い学びがある空間が東成瀬村の小・中学校にあったというのを思い返していました。

私たちが毎年、市長に対して予算や政策要望をしていますが、まずはこのインクルーシブ教育をモデル校1校から始めるのも大きな一歩ではないかと思っています。

こういった取組を地道にやりながら差別・排除されない、健常者も障害者も一緒に学んで高め合っていくモデル的な学校の取組が旭川市でも、まずは1校目を達成できれば良いと思います。微力ながら、取組を今後も続けていきたいと考えています。

## 【市 民】

役所の受付などで、手話や筆記での対応をお願いしたときに、何となく面倒くさいような態度をされたことがあります。

福祉部局に行けば要約筆記も手話もしてくれるのですが、例えば公共施設に行ったときに、受入れがスムーズにいかないということがあるので、その辺りあたりをもう少し考えていただきたいと思います。

また、文化会館の建て替えのお話がありますが、私の母が一度文化会館に車椅子で行った時、車椅子のスペースはあるのですが、それが端の方なのです。

建て替えの際には、もう少し見晴らしの良い一角を、車椅子の人でも見られるようにしてほしいです。また、今は盲導犬と一緒に入れるような施設が少ないのではないかとと思うので、きちんと考えることが必要だと思います。

もう一つ、エレベーターを設置するとした場合の話ですが、我々のように耳の聞こえない人が事故に遭ったときに連絡ができるよう、窓があるドアにさせていただくなど、その辺のところも考えていただければと思います。

市民が一番関心を持っているのは、除雪の問題だと思います。健常者の人たちからの目線ではなく、障害者の目線というのも大事にしてほしいです。業者によっては結構ばらつきがあるという話も聞くので、除雪期間が終わった後に各町内からの意見をまとめて、検討するような催しがあっても良いのではないかと思います。

除雪についての討論会や説明会があるということは知っていますが、そういう場では、良いことも悪いこともなかなか言えないので、町内会単位でも、あるいは市民委員会単位でもやってもらえれば良いと思います。

私は、福祉というものは、地道にやっていくものなのだと思います。今できることをどうしたら良いかということから考えた場合に、例えば福祉日本一のまち旭川を目指す

ということをもっと宣伝して、身近なことをみんなやっぺいこうというような雰囲気をつくってほしいと思います。

**【議 員】**

市役所の窓口の件も、エレベーターや盲導犬の件もそうですが、当事者の声をしっかり拾い上げていく仕組みが、これまで以上に重要になってきていると思います。

特に中途失聴者の皆様に関しては、例えばコロナのときに窓口にアクリル板ができたほか、皆さんマスクをしていて表情が読み取りにくいところから、様々な御苦勞もあったと聞いておりますし、悪意はないけれども、知られていなかったみたいなどころではないかと思っていますところでは。

聴覚障害といっても聞こえる、聞こえないだけではなく、聞こえにくいという方もいることは、知られていないのではないかと、私も難聴対策関係のことをやっている中で、感じるところがありました。

当事者の皆さんの意見をしっかり汲み上げる仕組みというのが大事だと思います。頂いた御意見、ここにいる議員がこれからの活動に活かしていただきたいと思います。

除雪に関して障害者の目線ということでしたが、具体的に何かあれば教えていただいてもよろしいでしょうか。

**【市 民】**

耳が聞こえないので、後ろから車が来ても分からないときがあります。

まして道は車1台分しか除雪されないの、車道と歩道が一緒です。

少しでも広くしてほしいというのが願望ですけど、予算と言われたらもうそれでおしまい。そういうことも頭に入れてほしいということです。

最後に、町内によってばらつきがあるのだとしたら、業者の人にきちんと言えれば良いと思うのです。

そのためにも住民の意見を吸い上げる必要があるし、我々はそれをなかなか話せないから、市民委員会、市議会を通してでも、意見があつたらまとめるというようなシステムを作してほしいです。その意見をもとに次の年に検証や要望をするというようなことも良いのではないかと思います。

**【議 員】**

しっかり受け止めさせていただきます。

**【市 民】**

私は夜間中学の公立化を目指しているのですが、一番弱い人の立場に立って生きるということは全ての人対等に大事にされる世界だと思っています。夜間中学のぬくもりは、年齢や国籍による差別は一切ない、発達障害の子どもが入ってきたら、おじいさんおばあさんのぬくもりの中で学べますから、全く差別やいじめが起こらない。おじいさんおばあさんが、人生経験が豊富だから、先生がたしなめられることもあつて、すごく温かい世界です。

札幌にはようやく公立の夜間中学ができたのですが、2番目は旭川市だと思っています。教育委員会とお話をしたほか、公開講座などをして、様々な形で公立化を目指して市長にもお願いしているのですが、なかなか前進しないのはどうしてなのかと思っています。教育委員会に言っても聞いてはくれますけれども、具体的に一緒に動きましょうとはなりません。

市議会議員の方々に、夜間中学のことをどのように考えておられるのかということをお聞きしたいです。

市議会議員は旭川市民の模範であると思いますけれど、時々市議会を傍聴すると、足の引っ張り合いの言動が見えたりとか、後輩をいじめたりというところが見えてきて、襟を正さなければならないのではと思っています。

差別やいじめのない世界のために、いじめ防止条例を制定し旭川で取り組まれていますけれども、その前に、大人の差別いじめ防止条例を制定するほうが先なのではないかと思います。

大人がやっている陰湿な言動を見て、子どもに差別やいじめといったものがすり込まれて行動に出てきているだけで、子どものいじめ防止条例を作る前に大人の差別いじめ防止条例を制定していただきたいと思い、そのことも皆さんにお聞きしたいと思います。

#### 【議 員】

夜間中学校の対象者は何歳ぐらいですか。

#### 【市 民】

年齢は一切関係なく、80歳、90歳の人もあります。

戦後の混乱期の中で、文字や漢字すら書けないおじいさんおばあさんがおります。

そういう人たちが何度でもやり直せる、何度でも入りなおせるところがあり、年齢差別は一切ないです。

#### 【議 員】

旭川の夜間中学の取組、当事者として学んでいる方も知っていますし、教師をやっている方もいらっしゃるって、画期的な取組だと思いますので、応援していかなければならないと思っています。

今おっしゃったように戦後の混乱期で十分に学べなかったという人もいれば、30代の人で、当時いじめ等様々なことで学校に行けなかったという人、十分に理解して学ぶことができなかつた人たちが通っているし、卒業しても何度も通い直す人がいます。

ずっとチャレンジし続けている姿が周りの人たちを変えていくような取組になりますので、そういうことは応援していかなければなりません。

学校現場だけではなく、大人も含めて差別やいじめのない社会を作っていかなければいけないと思います。議会は議員同士足を引っ張り合っているのではないかという御指摘がありましたが、議会は議論の場であり、様々なことが起きますが、足の引っ張り合いやいじめのためにやっているわけではありません。市政に対し政策的な提言など、様々なものを反映させたいと思って頑張っていますので、これからも、多少侃々諤々やる

かもしれませんが、頑張っていきたいと思います。

#### 【議員】

私は正直、夜間中学というものは存じ上げておりません。

市議となって20年以上経つのですが、そのような声を聞いたのは今日が初めてで、驚きました。

札幌でようやくという話でしたが、どのぐらいの人数の方が、どんな学びをされているのかから勉強させていただいて、2番目は旭川市で実現できるか考えたいと思います。議員の中には分かっている方もいますので、私も続いていきたいと思います。

大人のいじめについては、議会で言えば、ハラスメントに対する仕組みをつくっていかうという動きもあります。

#### 【議員】

私も夜間中学の札幌での取組は注目しておりました。

令和4年4月に北海道で初めてとなる公立の夜間中学校が設立されました。

様々な課題を超えて開学にこぎつけた札幌市議会の動きも活発でしたし、教育委員会の前向きな考え方もあったと思っております。

札幌の夜間中学校では、何らかの理由で中学校を卒業できなかった方が対象です。

外国籍で中学校を卒業していない、戦時中ということもあろうかと思いますが、年齢層は札幌でも様々なようです。いじめや不登校などによって学校に行けなかった、中学校を卒業できず、学び直したいと通われている若い方もいると聞いています。インクルーシブなまちづくりを進めていくためにも、学ぶべき年齢のときに学べなかった方に学ぶ機会を与える政策だと思っています。

一方で人材不足、財源といった現実的な課題もあります。課題があつてなかなか前に進めない事情もあろうかと思っています。

普通学級の教員確保が困難な時代ですので、課題を含め、どれぐらいの規模、財源が必要なのかということから調査をする必要があると思います。インクルーシブ教育のモデル的な取組から始めていくといった一步をスムーズに出すのも、旭川市としての取組の事例になるかと思っていますので、積極的に検討していきたいと思っています。

ハラスメントのお話がありましたが、議会ハラスメントについては、現在議会基本条例に追加しようという取組を進めております。

条文は、各党派一致の状態になっていますし、具体的なハラスメント防止の要綱につきましても、各規定が整理されており、防止要綱案が既に整っているところです。

仮に、事案が発生した場合、議長への申立てがあれば調査委員会を設置して、それがハラスメントになりうる事案なのか、実態を調査します。

事案がハラスメントと認定された場合、加害者となった議員に対して、制裁や氏名の公表なども可能にしていくような要綱を検討しているところです。

第4回定例会で全会一致に持っていきたいと考えているところですが、様々な意見があるので、応援のメッセージを送っていただきたいと思います。

一足飛びに完璧な仕組みをつくって運用していくことは理想ではありますが、

理想に到達するためには幾つかのハードルがありますので、できるところからやっていくのが私たちにできる方法だと思います。

ハラスメントのない議会をつくるためにも、引き続き、尽力していきたいと思います。

#### 【議 員】

公立の夜間中学の件ですが、私も今までそういったものがあるということを知りませんでした。札幌で前例があるということでしたので、どういった経緯でつくられて、どういった方々のニーズを満たしていくのか、どういう役割を担っていくのかということについてしっかり勉強しないといけないと感じたところです。

大人のいじめ。市議会のハラスメント防止の取組について説明がありましたが、一般論として「いじめ」という言葉の中には様々なものが含まれます。子どもの場合は悪いと思わずやっているような事例もあり、教育の枠組みの中で対応していかなければいけないと思いますが、大人のいじめに関しては厳しく、法に触れるようなことがあったらすぐにしかるべき機関が動くことも重要だと思います。

子どものいじめとは違って、大人はある程度悪いと分かっている、バレないようにやる陰湿なケースもあり、職場や近所のいじめとか様々あると思います。

法的手続きや、職場では労働基準監督署に相談しやすい環境、ブラック企業の問題になっている中で、徹底していかなければいけないと思います。

#### 【議 員】

夜間中学の話ですが、私はとても重要な話だと思いました。

不登校の子の学び直しや、戦後に学ぶことができなかつた方が通われることもあって、教育からの排除の問題だと思ったからです。

学校や教育から排除されてしまった人たちの学ぶ権利を保障するという意味で、夜間中学校というのは大事であると思いますし、今後取組を進めるべきだと思っています。

財源や人材など課題があると思うのですが、市としてどこを大事にして優先していくかという優先順位の問題だと思っています。

学びの権利を保障するために、議会として何ができるのかということを中心に考えていきたいと思っています。

いじめやハラスメントは、学ぶことが重要だと思います。資料にも差別の背景として偏見、無理解、慣行、制度、背景、コミュニケーション不足などありますが、自分は絶対にいじめやハラスメントをしないと、この人たちは絶対にしないだろうという思い込みも問題だと思います。自分がしてしまうかもしれないし、自分の発言も常に見直し、不断の努力を続けていかないと、なくせないものだと思っています。それが起きる背景や構造というものをきちんと学ぶこと。大人でも学び直しできることだと思いますし、子どもに対しても人権教育をもっと進めていくべきだと思います。

旭川市でそういった取組が先進的にできると良いと思います。

#### 【議 員】

夜間中学について勉強不足でまだ分からない部分が多かったです。

高齢者の方のデイサービスにも関わってしまして、通われている高齢者も勉強好きな方が結構多いのです。

デイサービスの中でも、脳トレ問題、数学の問題、漢字、パズル、英語などを積極的に学びたいという声が多いというのは、常に感じております。

インクルーシブともつながってくるのですが、職員の子どももそこに参加し、高齢者の方が子どもに積極的に教えてくれたり、関わってくれたりして、子どもが理解すると、高齢者も喜ぶのです。

インクルーシブという視点で考えたときには、そういう環境がすごく良いと強く認識しています。積極的に検討できるように努めてまいりたいと思います。

大人のいじめについてですが、旭川市もいじめの問題、更に最近暗いニュースもありましたので、大人が子どもの模範となる必要があると思っています。

具体的に今すぐこうということは言えないのですが、社会として、市議会の立場として、大人として、積極的にそういう旭川市をつくっていきたいと思います。

## 【議 員】

夜間中学校という言葉は知っていますが、公立化のイメージは持っていませんでした。

インクルーシブなまちをつくっていくためには、みんなで共有し合うということが一つだと思っています。知らなかった議員も知ることができて、そこに向き合うことができました。

また、夜間中学校をつくろうとしている方がいるということを知るだけでも、広がりになると思います。その声をどんどん大きくしていくことによって、空気を変えていくもとなってくると思います。

また、大人のいじめ防止条例のほうを制定するべきだというのはその通りだと思います。いじめをなくす条例を作ったからといっていじめがなくなるということはありません。道路交通法があっても交通事故がなくなるわけではありません。

なぜいじめが起きるのかを考える必要があると思います。教育現場では、いじめは世の中的には認められないからダメだと、「いじめちゃダメ」と言っているだけです。

だから大人でもいじめは起きる。それが今度ハラスメントだとかにも変わって、もっと言えば、あおり運転だとか自分本位の勝手な行動になっているのですが、もっと根本的なことをしっかりと考えていくことも重要だと思います。

夜間中学校というのは正にそのような学びの場にもなると思いますので、積極的に進めていく方向で考えていきたいと思っています。

## 【市 民】

子どもの貧困対策についてお話ししたいと思っています。

私自身の経験なのですが、小学生のときに親が病気で働けず、いわゆるお金がない家庭の中で育ちました。その中で、周りの子どもと同じものが買えなくて、いじめられたこともあります。当時は家のことは恥ずかしくてなかなか助けを求められないという中で苦勞をしておりました。

今、令和6年、こども家庭庁によると6人に1人の家庭が貧困状態にあるという調査

結果もある状況です。貧困家庭の子どもということで、大学に行けない、チャンスをつかむことができないといった格差も実際にあると思います。

子どもの貧困の裏側には例えばネグレクト、DV、ハラスメントの問題など、様々な問題が潜んでいると思っています。

対策の一步としてですが、沖縄県では子どもの貧困対策の推進に関する法律に基づいて貧困対策の調査を行っています。今後旭川市でも、生活の実態調査を行って、調査に基づく実態に即した対応・対策が必要だと思っています。

貧困を家庭の中だけでどうにかしようということではなくて、関連機関が連携して支援ができるまちづくりが必要だと思っています。様々な家庭が少しでも、親の経済力の影響をなるべく受けない、インクルーシブなまちになれば良いと思います。

### 【議 員】

実態調査についてお話がありました。旭川市でも平成26年頃に教育委員会が主体となって、全小中学生とその保護者の2万人を超える範囲で子どもの実態調査を行ったことがあり、この中で様々な状況が見えてきました。

それから10年間くらい経過していますので、近年の物価高騰や燃油の高騰など、様々な情勢が変化してきている中で、再び調査をしていくことが求められると思います。

ヤングケアラーについても全国で問題視されているところですが、旭川市ではヤングケアラーの実態調査もまだやっていません。今年度、ヤングケアラーに対する支援事業を実施したのですが、事業費の執行率が2%程度という非常に残念な結果になりました。

何が課題だったのか、今回の議会で質疑をさせていただきました。ヤングケアラーについてもまず順序立てて、支援事業をいきなり予算化し、構築するのではなく、まず実態調査を行った上で、適切な事業構築を行う。今回は飛び越えて実施してしまったことが問題だったと思います。

子どもの生活に関わる実態調査と併せてヤングケアラーに関する実態調査をやることによって、様々な状況が見えてくるかと思っていますので、10年前と同じ調査ではなくもう一步踏み込んだ調査の中で、どこまで子どもの貧困の状態を酌み取ることができるのか。このようなことを市として挑戦していくべきだと思っておりますし、定例会の子育て支援部長の答弁からも、次年度に向けて、そのような調査の実施に向けた検討をしていきたいという答弁もありましたので、しっかりと推移を見守っていききたいと思っています。

また、平成30年度から、非課税世帯を中心に高等教育の無償化が始まっています。まだまだ対象となる範囲が狭いのは承知していますが、高等教育の部分まで旭川市が財源確保するというのはかなりハードルの高い話だと思っていますので、旭川市独自の政策として進めていくというよりは、市民の声を私たちがしっかりと受け止めて国に届けていくという、運動が重要になってくると思います。

### 【議 員】

子どもの生活実態調査ですが、平成29年7月ですので、7年前です。回答が1万4500件ほどあったので、なかなかの調査だったと思います。

小学2年生と5年生と中学2年生、その保護者にそれぞれ聞いて、詳しい状況が分か

った状態だと思えます。

その後、具体的な支援にどうつなげるかが肝腎なところだと思えますが、7年の中で実態は大きく変わっていると思えますので、今の時点でどうなのかということを知る必要がありますし、様々な支援につなげるということが大事だと思えます。

## 【議 員】

子どもの健全育成事業というのも旭川市はやっております。

生活保護受給世帯とか、就学援助制度を利用している家庭の中学生を対象とした事業ですが、市内数か所で拠点を立ててやっております。

実際見学させていただいたこともあるのですが、来るべき方がなかなか来られていないというのが実態で、定員を満たしていません。

以前一般質問で、子どもの健全育成事業について質問させていただいたことがありますが、基本的には拠点に来ていただいて、貧困の問題でほかの子どもたちと同じような経験をするのができない子どもたちに、勉強以外にもいろいろ経験してもらおうというところなのですが、今後はなるべく予算を増やし、広報も行い、そういう方を見つけて来ていただくというようなことも、議員としても訴えていきたいと思えます。

中学生に限らず、小学校高学年とか、少し年齢層を幅広にして早い段階からの関わりも必要ではないかと認識しておりますので、これを引き続き訴えていきたいと思えます。

## 【市 民】

ひとり親で高校1年生の男子を育てているのですが、子どもはADHDと自閉症の当事者で、小学1年生のときから普通学級と支援学級を行ったりしていました。

当事者の親なのですが、子どもには児童相談所もあるし、児童デイサービスもあるし、学校に行けば支援学級の先生がいたりして、相談に乗ってくれる場所や支援があるのですが、当事者の親が相談できる場所がないと思っています。

子どもが小学校の頃に本当に手に負えなくなって虐待をしてしまって、子どもが児童相談所に保護された過去があります。そのときに、誰に相談して良いのか分からなくて、民間の支援団体とつながりました。また、子どもが小学校のときには、学校のスクールカウンセラーと一緒にカウンセリングを受けたりして大変お世話になりました。

中学校に入ってもなお支援学級と普通学級を行き来していたのですが、何か問題があったときに、誰に相談して良いのか分かりませんでした。中学校にスクールカウンセラーをお願いして、小学校の時に担当だったカウンセラーさんの名前を言ったのですが、その方は派遣できないと言われました。今の学校の担当カウンセラーに相談するよう言われましたが、そうするとまた最初から説明しなければいけないので困りました。

今、高校生になりましたが、思春期や反抗期もあって結構困ることがあります。極力暴力をしないようにはしているのですが、子どもも親に悪いこととしてバレたとなった時に、自分で児童相談所に保護してもらいに行ったりします。

私もどうして良いのか、誰に相談したら良いのか分からなくて、せめてカウンセラーを選べる、そういう制度を整えてほしいと思いました。

子どもは児童相談所とかが守ってくれるのですが、親は誰が守ってくれるのでしょうか

か。誰に相談するのも選べないし、どうにかしてくれないかと思っています。

**【議 員】**

小学校のときのスクールカウンセラーさんが、とても親身に御相談に乗ってくださったのだらうと思います。

スクールカウンセラーのことは私たちも議会でよく、取り上げている点です。一般的な取決めとしては、その学校でスクールカウンセラーの配置をしています。スクールカウンセラーの人数が少なくて負担が大きいということは課題ですが、特別なケースにおいて、指名制を含む相談体制の構築が本当にできないのかというお話を受け止めさせていただいて、市側にそういったケースに対応できないのかということを確認しながらやっていきたいと思っています。

また、親として、お子さんのことを中心に相談したいということですが、市には女性相談窓口もあります。窓口いきなりお話ししに行くのは敷居が高いと感じるかもしれませんし、お話しして解決に向かうかどうかは、内容や相談員の方の能力もあるかと思いますが、これからお子さんが思春期を迎えられてますます大変だと思っていますので、少しでも自分が生活しやすくなるよう、まず御相談をしてみただけいたらと思います。

窓口や支援を利用していただきながら、内容がまだまだ足りないということでしたら、また御意見を頂戴したいと思います。

**【議 員】**

女性相談、親子一緒の相談、子ども総合相談センターという子どもの総合窓口、児童相談所など、各種縦割りの相談機関はあるのですが、相談に行ってもたらい回しにされてしまうというのが率直な実感です。

私に相談が来た時には、障害、保健所、教育、福祉の専門家をみんな呼んで、会議のように対応をしたことがあります。そのときはたまたまそういうことができたのですが、普通にどこかの窓口に行ってもそれができるかというとなかなか難しいと思います。

親のことも子どものことも大変で、複合的な問題を抱えているような難しい事例においてはそのような会議が必要なのだと思っています。

1か所で様々なことが分かる、分からなければみんなで集まってやるといった体制を市としても考えなければならないと思っています。

本当はワンストップ窓口が理想で、旭川市も新庁舎になるときに、ワンストップになるよう同じ庁舎に係を集めたつもりではありますが。具体的な体制という次の段階を考えなければなりません。率直に言って今すぐ解決できることではないので、私もほかの議員も個別に言ってもらえば対応すると思いますので、今のところは個別対応で何とかするしかないと思います。

**【議 員】**

大変難しい事例だと思っています。ここに相談をしたら全て、受け止めていただけるというところはないかもしれません。

ここ数か月間の中で、高齢者虐待を防止してほしい、施設で監視機能を高めてほしい

といった問合せがあつて、私に対応した事例がありました。

市民から相談を受けた問題の解決に当たるのは職務上当然のことだと思っておりますので、議員の個別の連絡先が分からなければ議会事務局を通していただくなど、そういった形で活用していただければと思います。

私もどうやって子育てをしていったら良いのかと悩んでいる親の1人ではありますが、発達障害児の子育てということで私の何十倍も大変な思いをされていると思います。

子育てに関する相談窓口が旭川市子ども総合相談センターの中にあります。子ども家庭相談係というところで行っているのですが、一つの窓口として、子ども当事者ではなくて、親が相談できる窓口があります。

是非、そのような窓口で、悩んでいることについて具体的に絞って相談するというのも方法の一つかもしれません。私も様々な方から相談を受けるのですが、箇条書きで項目をつくってもらって、これを何とかしてくださいと具体的に言われたほうが解決策を考えられるので、相談のテクニックややり方としてそういう方法も検討していただきながら、また議会にも御相談いただければと思います。

## 【議 員】

子育てで悩んでいるというより、自分がどうしたら良いかということで追い詰められているのではないかと思います。

以前同じような場で、「相談窓口があつても行かない」という言葉を聞きました。同じ境遇とか同じ人たち同士の中で、解決策を話し合ったりする、そういう受皿のようなものがあるということを知りました。

子育てではありませんが、先日、介護で大変な思いをしている人同士が集まって悩みなどを話し合う場があつて、最後は泣きながら共感していたり、話し合う中で新たな視点や解決策が出てきたりしていました。

先ほど民間団体のお話もありましたが、その民間団体はネットワークがとても広いです。行政や公的な相談窓口だけではなく、関わっている民間団体だけではなく、そこに関わっている人たちの中に同じような悩みを持っている人がいるかもしれませんし、そのような人たちと出会ったりできたら良いと私は思いました。

また本日来られている人たちの中には、様々な活動をしている人たちがいるので、声をかけてあげられるような人がいれば、ここからでもつながれば助かると思います。

## 【市 民】

インクルーシブなまちづくりというテーマを聞いてお伺いしたいなと思ったのが、このまちがどう若者に目を向けているのか、どういった課題を皆さんが感じられているのかということです。

私も旭川市で育っていますが、若者は10代から20代ぐらいの子どもとも大人とも言えない移行期であるからこそ、様々な権利保障や機会保障という観点で不遇な環境にさらされやすいという特性があると思います。若者の中にも様々いますが、旭川市政を見ても、目を向けている感じがしません。例えば余暇の場をとってみても、若者が余暇を過ごせるような場が確保されていなかったりします。

この間の神居古潭の事件もありましたし、駅裏の界わいの話もあり、問題要因として目を向けられる若者の話題はよく出てきますが、若者が社会参加する場をどう取り戻していくのかという話とか、その一つとして余暇の権利保障という話もあると思うのですが、その辺りの話が旭川市では全く出てこないと思います。

議会でも、旭川にユースセンターを作りませんかと質問されても、今は考えていませんという一言で終わらせられてしまったことがあったと思うのですが、札幌だと逆にユースセンターが市内5か所にありますし、札幌のユースセンターを運営している団体さんから、大通にたむろしているラッパーやスケボーで遊んでいる子どもたちにアウトリーチ型のユースワークをしているという事例も聞いたことがあります。

旭川市は若者にどう目を向けているのか、若者関連の旭川市の課題を皆さんがどう感じているのか意見をお伺いしたいです。

### 【市 民】

職場がLGBTQに寛容なお店で、私個人も授業として高校生の前でLGBTQについてお話しすることがあるのですが、生徒さんはとても自由主義的な考えで、「そういう人が友達にいたのだけれど」とか、「どうしたら傷つけないでしょうか」とか、若い人のほうがとても配慮していると思います。むしろ、そういう概念や教育を受けていない大人のほうに差別意識が残っているのではないかと思います。知識とか理解がないと差別につながっていくと思います。

先ほどの質問者の本を読ませていただいたのですが、先生がすばらしくて、生徒さんが受け入れていて、子どものときから様々な人、自分と似ている人や違う人と一緒に過ごすことで多様性や柔軟性、おもてなしといったものが育つのではないかと思います。

性的マイノリティの法律婚等の関係が資料にありました。今年から旭川市でもパートナーシップ制度が導入されたのですが、旭川市として、この問題について取り組んでいることがあったらお聞きしたいと思います。

### 【市 民】

私は昨年度まで旭川市の社会福祉審議会審議委員をしておりました。

先ほど中途失聴者の方のお話の中で、当事者の意見をしっかり反映させてほしいということがありましたが、審議会に行くと専門家しかおらず当事者の方がいません。

これはどういうことなのかと審議会のほうで話したことがあるのですが、審議会の中の審議になってしまい、その声は反映されないと思ったので、この場をお借りして少しお伝えしたいと思いました。

また、先ほどの議員の方の御発言の中にあつた、ハラスメントは自分もしてしまうかもしれないということ、このことに思いをはせること、それが相手の事情を知ろうとする態度であり、インクルーシブな社会をつくるためのこれからの大人の基本的な所作になってくると感じました。とても良いお話だと思いました。

最後に、私はインクルーシブ教育を推進するために、市教委や市長に対し要請書を出したりしてきました。

今日はっきりお伝えしないといけないと思ったのは、先ほど夜間中学のお話がありま

したが、現状をどうするかということと、未来をどうつくっていくかということとを二つに分けて考えなければいけないということです。

夜間中学校は、当然現状にアプローチしていくことが必要になりますが、その上で未来をどうつくるのか、将来的には夜間中学校がなくなるような社会をつくっていかねばならないのではないかと考えています。

そのためには、普通学校及び学級をどう改革していくのか、ここが肝になる部分だと思います。共通の認識として持っていただければ、大変有り難いと思います。

## 【議 員】

若者へのまなざしということで、私も今まで若者への支援視点というのが、旭川市に限らず国全体としても欠けていたのではないかと考えていました。以前議員秘書をやっていて、こども家庭庁の創設にも携わってきたのですが、その中で、例えば子どもの貧困であるとか、あるいは就職氷河期世代がどういう状況なのかとか、なかなか御理解いただけてないようなところもあったと思います。

様々な予算配分でも、「若くて元気だから放っておいても大丈夫でしょう」といった意見が出ることもあって、そう言っている高齢の方とかは全然悪意がないのですが、なかなか分かっていないと思いました。

子どもの貧困調査の話もありましたが、そういうことをしっかりデータでも出しながら、もっとこどもや若者に光を当てていかねばならないと思っていますし、具体的に貧困問題や奨学金という名の借金を背負っている若者が多いとか、そういう問題に我が国全体でもっと取り組んでいかねばならないなと思います。

そういう機運が見えないというのはごもっともだと思いますが、少しずつ出てきているとは考えています。まだまだ頑張りますので御指導よろしくをお願いします。

知識がないと偏見につながるのには正にそのとおりでと思います。有名な話で皆さんも知っているかもしれませんが、元明石市長の泉房穂さんの弟さんに障害があつて、普通学級に通うのに、兄として自分が連れて行ったというエピソードがあります。日中は普通学級で、健常者ばかりだから弟がマイノリティだけれど、放課後に弟と一緒に障害者団体の場所に行くと、そこは障害者ばかりで逆に健常者の自分がマイノリティで、一体どちらが本当の世界なのかと思ったという話があります。社会は様々な人がいての社会だということを前提にしていかないといけないと思います。

ここはこういう人の世界だと分けてしまうと、お互い理解がないから、意図せぬ偏見とか差別につながると思いますので、今日のテーマであるインクルーシブを少しずつでも着実にやっていくことが大事だという印象を持ちました。

また、当事者の意見をもっと取り入れるべきだというのはごもっともだと思いますし、現状と未来を分けて考えて政策を立案していくというのはとても大事な視点だと思って聞かせていただきました。

【まとめ】

民生班では、すべての市民が、年齢や性別、人種や国籍、障害の有無、性的指向や性自認等によって差別・排除されることのないまちにする「インクルーシブなまちづくり」をテーマに意見交換会を行いました。

暮らしの中で感じる生きづらさや困りごと、インクルーシブなまちにするためのアイデアなど、市議会と意見交換をしませんか？ と市民の皆さまに呼びかけたところ、41名の皆様が参加され、障害児の教育に関する意見、公共施設における障害者への対応、大人のいじめや差別、子どもの貧困対策、子育てに悩みを持つ親の相談場所、若者の居場所、LGBTQへの理解など様々な御意見や御提案を頂きました。また、意見交換会に対する意見や感想をも17件寄せられたほか、当日参加された方から、「インクルーシブなまちに向けてのスタート地点に立ったような気がする」といった言葉も頂き、大変貴重な時間であったと感じました。ご参加頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

当日写真

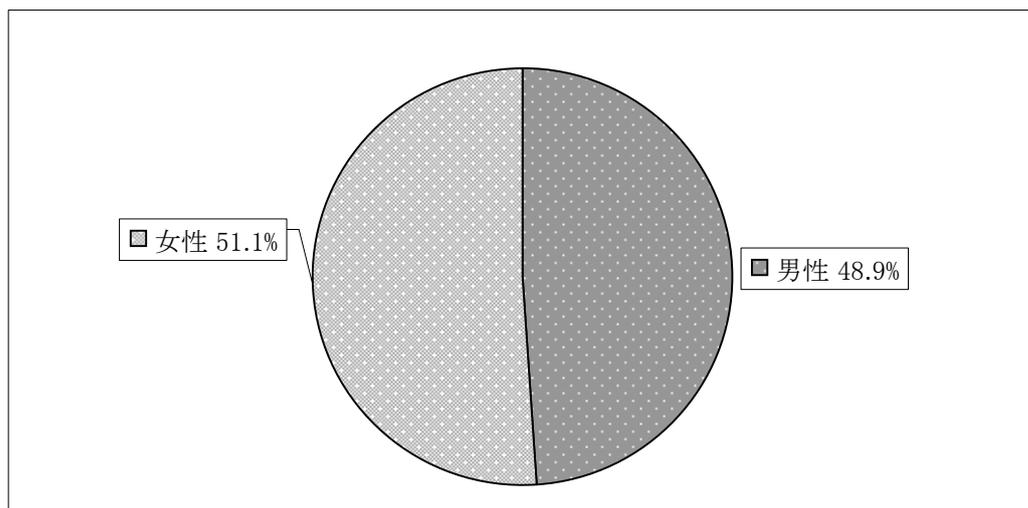


## アンケート集計結果

自由記載欄は、一部抜粋・要約をしている場合があります。

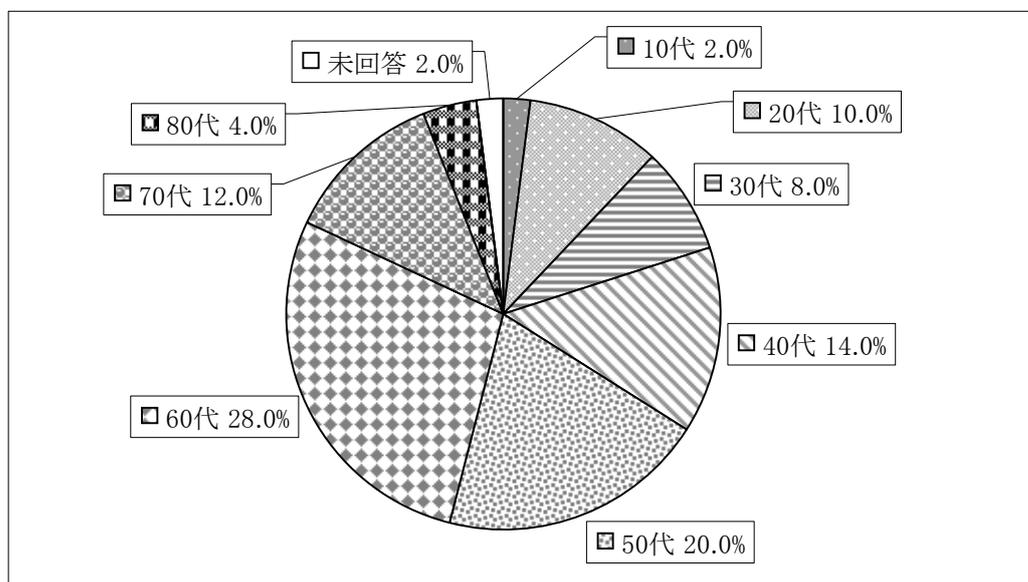
### 1 あなたの性別

性別	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
男性	6	4	5	8	23
女性	2	5	7	10	24
未回答	0	1	0	2	3



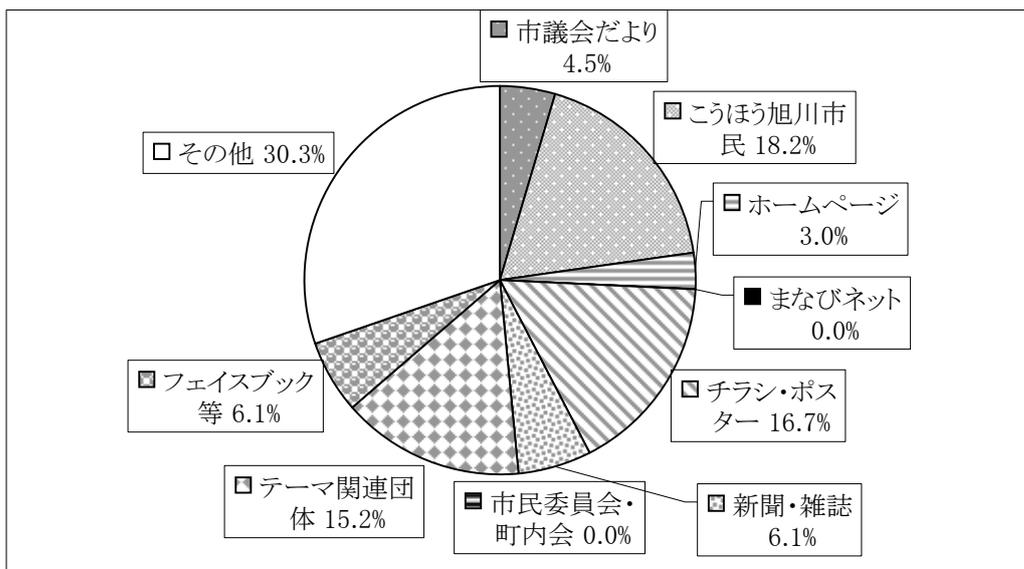
### 2 あなたの年齢

年齢	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
10代	0	1	0	0	1
20代	0	2	0	3	5
30代	0	1	1	2	4
40代	0	1	1	5	7
50代	2	1	3	4	10
60代	3	3	6	2	14
70代	1	1	0	4	6
80代	1	0	1	0	2
90代以上	0	0	0	0	0
未回答	1	0	0	0	1



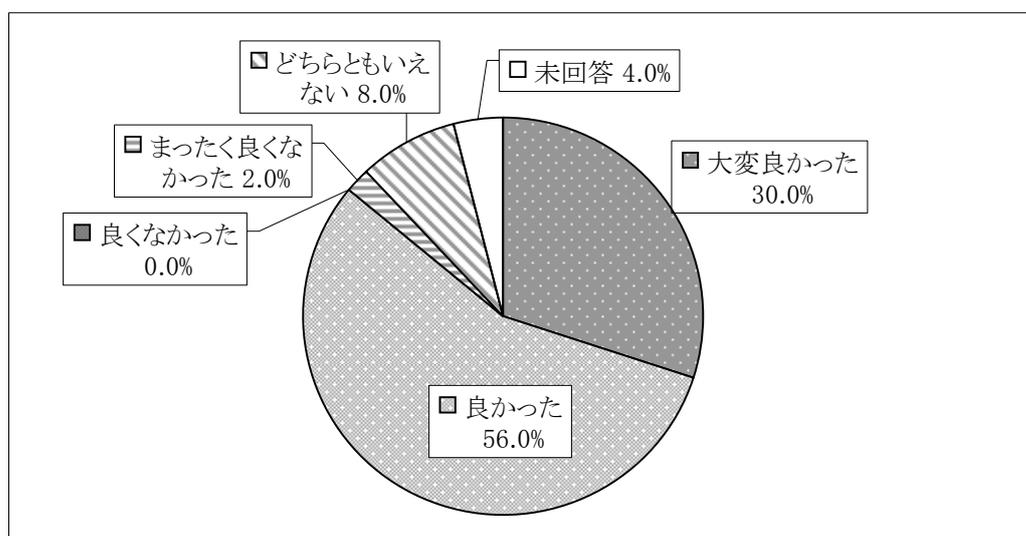
3 意見交換会の開催を、何を通じて知りましたか。

認知方法	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
市議会だより	1	0	2	0	3
こうほう旭川市民	3	1	5	3	12
ホームページ	1	0	1	0	2
まなびネット	0	0	0	0	0
チラシ・ポスター	2	1	3	5	11
新聞・雑誌	0	1	1	2	4
市民委員会・町内会	0	0	0	0	0
テーマ関連団体	2	5	0	3	10
フェイスブック等	0	1	2	1	4
その他	2	3	4	11	20



4 本日開催した場所はいかがでしたか。

会場の感想	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
大変良かった	2	5	4	4	15
良かった	6	4	5	13	28
良くなかった	0	0	0	0	0
まったく良くなかった	0	0	0	1	1
どちらともいえない	0	1	1	2	4
未回答	0	0	2	0	2

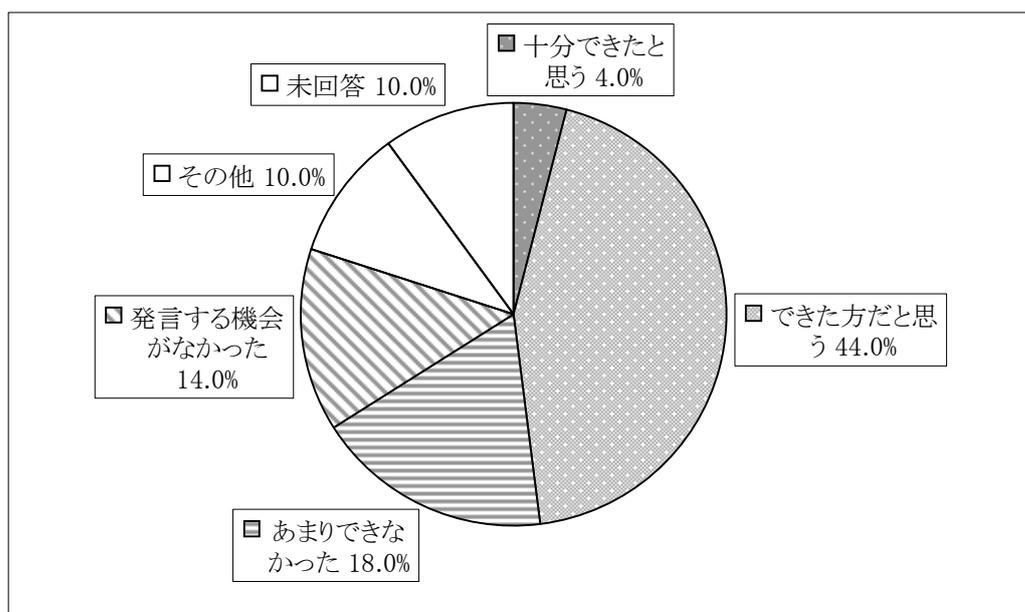


\* 会場について特に意見等がありましたらお書きください。

主 な 意 見	
<b>【市役所議場】</b>	(意見無し)
<b>【市役所第1委員会室】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所は市役所で良い！バスで来られるため。</li> <li>・議場がある本庁がよかった。</li> <li>・緊張しやすい場所だったが、「市民と議会…」ということで仕方ないと思いました。</li> <li>・対面形式だと戦っている雰囲気がある。意見交換会ということでは円形の座席が良いのではないかな。</li> <li>・普段は入れない場所なので、貴重な経験になりました。</li> <li>・駐車場代をもっと安くしてください！</li> </ul>
<b>【旭川市障害者福祉センター(おびった)】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場所は良いと思いましたが空間作りに改善の余地はありました。議員と市民の垣根を超えた活発な意見交換を狙うなら、議員vs市民の構図のような配置ではなく、例えば小グループをいくつか作ったり全体を円のように配置するなどの工夫があるともっと話しやすいと思いました。</li> <li>・福祉センターで行ったため福祉の話が多かった気がします。もう少しいろいろな角度からの回答が聞ければよかったとおもいます。</li> <li>・おびったは障がい者福祉のための施設。「インクルーシブ」という広いテーマを取り扱う今回は、市役所の方がよかったのではないかな。チャリンに車いす利用者のイラストが使用されている点も気になった。</li> <li>・場所は問題ありませんが、施設の音響設備は更新した方が良いと思います。</li> </ul>

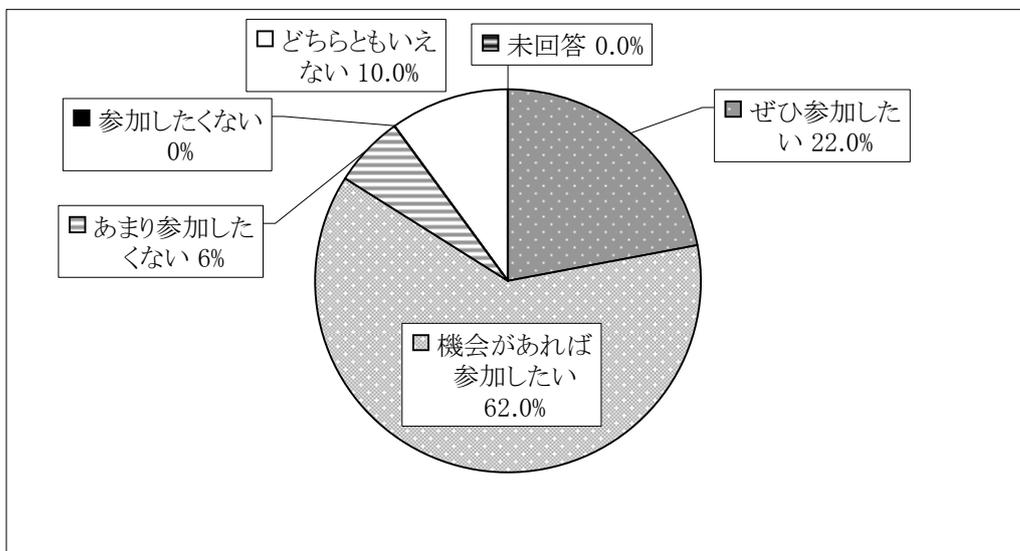
5 本日は議員と意見交換することができましたか。

議員との意見交換	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
十分できたと思う	0	0	1	1	2
できた方だと思う	2	5	7	8	22
あまりできなかった	2	3	1	3	9
発言する機会がなかった	1	1	1	4	7
その他	2	1	1	1	5
未回答	1	0	1	3	5



6 次回の意見交換会も参加してみたいですか。

次回の参加	経済建設班	子育て文教班	総務班	民生班	合計
ぜひ参加したい	0	4	3	4	11
機会があれば参加したい	6	5	8	12	31
あまり参加したくない	1	0	0	2	3
参加したくない	0	0	0	0	0
どちらともいえない	1	1	1	2	5
未回答	0	0	0	0	0



7 今後設定してほしいテーマや、本日の意見交換会に対する意見や感想などを、お書きください。(自由記載)

班	記載された意見 (一部要約)
経済建設班 (11月1日)	<p>冬の時期に毎年旭川市で発生する雪の問題があります。前の冬の除雪の状況を経験し、車を運転する者も歩く者も辛いものがありました。住み良い旭川市であります様、協力したいです。</p> <p>中心市街地活性化が大事。新文化会館だけでは活性化は難しい。</p> <p>市政に反映させるためにも、今回話し合ったことを1回限りにせず、今後も継続して内容を深めていく努力を議員に求めています。</p> <p>もっと参加者が多い方が様々な意見があると思います。</p> <p>意見を求めるのなら、SNSでも参加できる仕組みがあれば良い。</p> <p>広報あさひばしの有効活用やライナー等の活用も。</p> <p>《今後、設定してほしいテーマ》 (記載なし)</p>
子育て文教班 (11月7日)	<p>もっと多くの方が参加して1日も早く改善されるのを期待します。</p> <p>参加者の皆様からの意見がとても良かったです。できることをすぐやっていますね。</p> <p>地域づくりについて考え意見を交換していきたいです。</p> <p>言いつばなしになるのかな？ 子どもたちの切羽つまったSOSを聞いてほしい。子ども総合相談センターの機能はゼロですか？</p> <p>議員の皆様からも市へ働きかけをお願いしたいことがたくさんあります。市職員、行政、市政を動かせる、働きかけられるのは、市民の代表である市議さんなのでありますから。</p> <p>意見交換というより発表会みたいでしたが、自分たちの他の団体の話など聞けて良かったです。</p> <p>市議会議員の皆様とお話しすることがないので、大変貴重な時間になりました。また学生にも関わらずお心遣いいただきました。</p> <p>提案ですが、小中学生と高校生、大学生の交流の場を団体主体だけでなく、行政主体でも行って欲しいです。学生団体では費用や責任の面から学生だけでできることはとても限られているので、行政がそのような企画を推進していただくと良いです。</p> <p>中学生と高校生など年齢の近いもの同士で交流をすることで、大人に言えない様な子どもの悩みを学生が引き出せるのではないかと思います。活動を市内・市外にも発信するべく旭川市の公式YouTubeチャンネルやSNSを駆使したデジタル戦略を進めていく必要があります。</p> <p>交流機会を増やしても、根本的にヤングケアラーなどの子供達を守らなければ負のサイクルが続いていだけなので、まずは子供の身体的・精神的な負担が減るようなシステムを構築していくことを第一に、子ども食堂やプレーパークなどの子供たちが生活しやすい環境づくりを進めていくべきだと思います。</p> <p>旭川の子供たちがより健全に成長する為に、行政がすべき事は何か。子供・若者の貧困、非行関連問題について、市を挙げて対策を計画し、</p>

	<p>実行しよう会～自分達は何が出来て、賛同者、協力者をいかに増やすか、既成組織には何を求め、何時まででどう実現させられるのかを考え、行動しましょう会～を即刻開催してください！</p> <p>《今後、設定してほしいテーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動について</li> </ul>
<p>総務班 (11月14日)</p>	<p>子育て文教班のような教育の在り方について、経済的な観点からいかがでしょうか。</p> <p>-----</p> <p>超高齢化社会で、独居の人が暮らしやすい様に。</p> <p>-----</p> <p>改めて、消防の救急活動を知る事ができました。市民、若い世代にも活動内容を伝えてほしいと思いました。また、今後の救急医療体制DXも期待します。応援しています。</p> <p>-----</p> <p>出席している市議の態度が気になりました。背もたれによしかかり、目をつむっている方が居ました。</p> <p>-----</p> <p>《今後、設定してほしいテーマ》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者による多頭飼育崩壊について</li> <li>・野良猫、保護猫の現状について</li> <li>・重度障がい者の緊急預かり支援について</li> <li>・総合体育館～陸上競技場 再開発</li> <li>・買物公園通の古いビル開発の今後</li> <li>・認知症の対応（予防）・健康寿命・健幸アプリの対応と展望</li> </ul>
<p>民生班 (11月15日)</p>	<p>質問させていただいたら4名の市議さんが一生懸命答えてくださいました。</p> <p>-----</p> <p>要約筆記はパワーポイントで作成した大まかな下地資料があった方が見やすいのでは。</p> <p>発言できませんでしたが、様々な支援や相談窓口があっても、それをどこで知れるか、情報を受け取れるかが大事だと思いました。わかりやすく告知されてること、窓口に行きやすいことの対策があると嬉しい。</p> <p>-----</p> <p>テーマが多く深掘りは嬉しいが、一問一答は物足りなさも感じました。ただこうした機会を真摯に設けている議会に敬意を表します。</p> <p>-----</p> <p>議員の方と参加者がもう少し話せる時間がほしい。</p> <p>-----</p> <p>要約者がいるのに早く話したりすることもあって、市議の方は伝える為の工夫をしてほしいです。盲ろう者介助員制度の話をしたかったのですが残念です。</p> <p>-----</p> <p>障がいを持っている方の働く場をもっと増やしてほしい。</p> <p>-----</p> <p>意見交換という狙いなのであれば、一問一答形式というよりも、市民と議員が小グループをいくつか作って、テーマに対してみんなで話すような形式でも良いのではと思います。</p> <p>-----</p> <p>市民の声を直接伝えられる機会はとても良いと思いました。しかし回答が長すぎると感じた場面もあり、市民の意見を聞くことが一番重要であるので、長さや簡潔さに気をつけて発言して欲しかったです。</p> <p>-----</p> <p>議員の話す時間が長すぎる。市民の声を聞くことに注力すべき。直接電話が来た件など稀な事例を紹介していたが、公的な場で市民の意見を直接聞く機会をもっと大事にした方がよい。市民は、無難な回答ではな</p>

く政策での応答を求めている。

また、議員の発言機会は平等にすべき。若手や女性議員の発言回数が少なかったと思われる。誰に何の話を振るのか決めておくべき。テーマに関して回答の技量のない議員が目立った。市民はそれぞれ当事者性があるので、同じ熱量で答えることは難しくても、よく勉強してほしい。

意見交換会のテーマのサイズ感が異なることも気になった。他の班と比べて「インクルーシブ」は急に広範なテーマで、議論の焦点が定まらない。その中でも何について話すのかを決めることが望ましい。インクルーシブだけで4回開催してもよかったように思う。

旭川市規模で約40名の参加者は少ない。広報に力を入れた方がよい。仕事を持っている人は日中や平日夜の参加は困難。開催日時についても再度検討してもらいたい。

1. 冒頭に一人3分でという案内がされていたが、守らない議員がおり、進行役も注意しなかった。何度も発言していたため市民が話す時間に影響を与えている。
2. 虐待加害者となった女性がマイクを渡されたとき、「名乗らなければなりませんか？」との問いにマイクを渡した方が「できればお願いします」と言い、実名である内容を話していた。最初に発言のルールをアナウンスし、特にプライバシーにかかわる話については名乗らなくてもよいと伝えておくべきと考える。また、進行役もその人の名前を何度も繰り返したのも問題であったし、本人が望んで名乗ってもいないのに「名乗っていただき勇気があると思います」といった的外れのコメントをする議員もおり問題を感じた。
3. 今回の会場形式は意見交換の場として適切かどうか一考していただきたい。議員と市民が対峙するような形で、しかも名前を名乗らせて発言をさせるような形は、強い動機付けがないと発言できない雰囲気を作り出しているし、発言時間も制限される。今回の会場は活発な議論がされていたが、ほかの会場はなかなかひどい状況であった。ワールドカフェ形式や、議員がいくつかのグループに分かれるなどして広く意見を聞く場として活用してほしい。
4. 3に関連して、旭川市の人口に対し4回の会場参加のみの意見交換会は、「市民と議会の意見交換会」として実質的な機能を果たしているのかも考えてもらいたい。オンラインでの参加や回数設定なども検討すべきことだと思う。

インクルーシブな小学校を始めたいと思っているという議員さんの言葉が嬉しかったです。一緒にいることが何より大切だということが身に染みしています。一緒にいたら、障害を持っている子どもと過ごすことはお金も人もさほど必要ではないということがわかります。工夫すればいいだけです。予算がない、人がいないと言っても何も始まりません。一緒に過ごしてみたいです。障害をお持ちのお子さんの保護者が「中学校の3年間一緒に過ごさせてもらった」とおっしゃいました。当たり前のことなのに。

教育、福祉分野の意見が多数を占めました。中でも教育にアプローチ

した質問，意見が多岐にわたり，課題の整理の必要性を感じました。インクルーシブな視点で現状の課題をいかに解決していくか。それと同じ視点で未来をどう創るか。

高校を卒業した方々のお話を聞くと，校則や学校文化，学校スタンダードの様な，“謎ルール”の中で生活し「できる」ことを強要され，できなければ『ごみキャラ』として措置され，排除される可能性を前提とした環境にあったことを語っていました。昨今旭川で起こっている子どもに関わる事件の数々も，教育の関わりの中にしっかりと課題がある事を認識し，先送りしないことが喫緊の課題であるように感じました。

教育の当事者は子どもたち。市政における各分野においても，専門家だけではなく当事者の意見を聞き，発言しやすい構造に調整すること，反映させることが必要です。教育は子どもに上から目線の制度設計になってしまいがちです。子どもという時代を生きる立派な権利の主体。対等な関係性の中で声を拾う仕組みの構築が急がれているように思えてなりません。事情を知ろうとする態度を大人が身につけ，子どもたちには障害の有無や他のマイノリティ性に関係なく，ごちゃまぜの中で生きることを体験するフルインクルーシブな教育環境を提供すること。「インクルーシブなまちづくり」の第一歩はここにあるように思いました。

今後のテーマ設定として「旭川らしいインクルーシブな教育づくり」の意見交換をしたいと思いました。

◇テーマについて

テーマは非常に良かったと思います。意見が活発に交わされ，認識を深めることができました。議論をもっと続けたいとも感じました。一方でテーマが限定されていると，テクニカルな話に終始し，知識がなければ議論に参加するハードルが高くなる場合があります。

日常生活は行政区分に縛られないため，特定の分野に限定すると議論の広がりや深みが損なわれる恐れがあります。以前の意見交換会ではその傾向を強く感じました。テクニカルな話題は業界団体や専門的な場で議論し，市民との意見交換では多様な意見を引き出せるテーマ設定が重要だと思います。

◇テーマの説明について

冒頭で議員の方がテーマ説明をされましたが，不十分だったと感じます。「ここに来ている人には説明は不要かと思います」といった発言があり，参加者を限定しすぎた態度に映り，「興味を持って来てみた」方には排他的に感じられたのではないのでしょうか。

議員の方々から理解不足が見受けられる発言も多く，テーマの共有にはもっと時間をかけるべきだったと思います。

例1：夜間中学はインクルーシブの範囲ではない，との発言

説明の必要がないほどの理解不足。事前にインクルーシブについて基本的な説明を徹底すべきだったと考えます。また，「長年議員を務めてきたが，夜間中学について聞いたことがない」との発言もあり，事前に十分な勉強をして臨む必要があったと感じました。

例2：女性の相談窓口がないので議員に直接言ってほしい，との発言

「インクルーシブなまちづくり」を否定する態度だと感じました。現状を変えるための意見や取り組みを考えるべきであり、個別に議員に頼るのは限界があります。34人の議員でどれだけ個別相談を裁けるかを考えれば、そのやり方が持続可能でないことは明らかです。状況を改善するための議論が必要だったにもかかわらず、得意げに議員に頼むことをアドバイスしていた点に、インクルーシブへの理解不足を感じました。「議員が入らなければ適切な行政の行動が行われない」という点に、もっと意識を向ける必要があるのにそれを疑問に思わなかったのでしょうか。それ自体がインクルーシブなまちになっていないことを表しています。

#### ◇運営について

冒頭で「1人3分程度」とのルールが示されましたが、議員自身がこれを守らない場面が目立ちました。また、進行役が十分に機能しておらず、特定の発言者が長時間発言することをコントロール出来ず、もっと多くの意見が出たはずなのにそれが進行のせいでうまく行われなかったように思います。

運営役は2人いたようですが、役職に関係なく適切な進行ができる人を選ぶべきだと感じました。全体の議論を円滑に進めるためにも、進行役の選定や運営方法について見直しが必要だと思います。

市議の皆さんがインクルーシブについて、どれだけ知識があり理解が有るのかを知りたくて参加しました。

率直に申し上げますと少し残念でした。夜間中学の存在を知らないのには驚きましたし、障害のある当事者の困り事や生活のしづらさを考えて頂いていたなら、質問に対する市議の方々の返答がもう少しマシになったと思いました。

私は時々ですが車イスを使用していて様々な場面で不自由を感じています。手話の勉強中で聞こえない人達の長年の苦労話を聞いています。旭川市は障害者には優しくない街だと他府県に旅行に行くと感じます。もう少し寄り添った法案や条例の制定をお願いしたいと思います。

インクルーシブ社会の実現のためには、他者への理解が欠かせないと感じており、私もそのためにはまず排除について気づくことが重要だと考え、このような機会を設けていただけることに感謝いたします。

一方で、相反する意見が述べにくい雰囲気もあります。マイノリティとは一般的に少数派という観点で言われますが、社会的弱者という意味もあり、障害者が暮らしやすいまちを作ることを善とした場合、相反する意見を唱えることは「悪＝マイノリティ」になるということです。

インクルーシブ教育を具体例にとると、障害を持つ生徒が普通学級で学ぶことを善とする意見ばかりがクローズアップされ、不安や懸念する声が聴かれないという現状があります。

小学生の頃、障害がある生徒と同じ教室で学びましたが、事例にあったような良い関係は築けませんでしたし、障害との共存という考えは育まれなかったと思います。環境が整っていない中でのインクルーシブ教育の実施には反対です。

現在の小学校の学級をみると、昔よりハンディキャップを抱えた生徒が多いのに、支援員の数は不足し、先生方もデジタル化やいじめへの対応、非常識な保護者への対応に追われ困難度は高いと感じます。

学力低下も不安です。道内生徒の学力は内地と大きく乖離し、昔に比べ授業カリキュラムは前倒しされ、今以上に配慮が求められる生徒が増えると、授業について行けない生徒が増えます。高校、大学進学を機に道外へ出たときのライバルは全国区となります。

学校の勉強では足りず、中学へ上がると多くの学生が進学塾に通っています。経済的に余裕がある家庭は問題ありませんが、授業料は高く、格差は広がるばかりで、結局しわ寄せの場所が変わっただけのように見て取れます。

部活動の地域移行についても、子どもたちがプロフェッショナルな意識を持ってスポーツに取り組んでいるのではなく、共働き家庭では練習会場への送迎すらできず、道具を一式揃えてあげられる家庭も一握りで、地域移行による課題が多く、対応がされていません。

意見交換会のような場で声を上げることができる方は社会的に少数かも知れませんが、マイノリティなのか、また、そのような意見だけをもって政策決定することが善なのかを改めて考えていただきたいです。検討では広い視野を持って、ディベートのような形で議論し進めていただきたいと願っております。

-----  
学校教育に関して

- ・障がいがあっても普通学級で過ごすために補助の人員を配置できるように（人材、財源）
- ・小さい時から障がいのある人が身近にいる事で理解が深まると思う。差別やいじめが起こらない様な支援も必要。
- ・障がいがあって地域に暮らすためには理解してもらうことが必要で大切だと思っています。  
本人が安心して外出できるまちづくりを目指すために当事者の現状を聞いて欲しい。

《今後、設定してほしいテーマ》

ノーマライゼーションな社会をテーマにしてくれると嬉しいです。

旭川街おこし企画会議



(ファックス番号：24-7810, 所在地：070-8525 旭川市7条通9丁目)

**【問合せ】 旭川市議会事務局（広聴広報委員会） TEL 25-6380**

このアンケートは、お持ちのスマートフォンやご自宅のパソコンから、インターネットで回答することもできます。

その場合は、この用紙への記入は不要です。

入力フォームのURLと二次元バーコード

<https://logoform.jp/form/iLZf/740988>



(入力フォームによるアンケート回答期限 開催日の一週間後まで)



## 市議会からのお知らせ

### 議会を傍聴しませんか

本会議や委員会は、どなたでも傍聴することができます。

#### 【問合せ先】

- ・ 会議日程：議会事務局議事調査課（電話25-6318）
- ・ 本会議・委員会の傍聴：議会事務局議会総務課（電話25-6380）

【本会議では、補聴装置、手話通訳及び要約筆記を御利用になれます】

- ・ 補聴装置（受信機・イヤホン）は、傍聴受付の際にお申出ください。
- ・ 手話通訳は、傍聴予定日の3日前までに

議会事務局議会総務課（電話25-6380・FAX24-7810）又は一般社団法人  
旭川ろうあ協会（電話45-0757・FAX45-0760）へお申込みください。

- ・ 要約筆記は、傍聴予定日の1週間前までに議会事務局議会総務課  
（電話25-6380・FAX24-7810）へお申込みください。

本会議と議案審査特別委員会はインターネットでも御覧になれます。

○旭川市議会トップページの「市議会を見る・聞く」に続いて「会議録，議会中継」をクリックすると、視聴方法の選択画面に進みます。

旭川市議会ホームページ

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/council/index.html>

#### 【編集】

旭川市議会 広聴広報委員会

#### 【問合せ先】

旭川市議会事務局 議会総務課

〒070-8525 旭川市7条通9丁目48番地

電話 (0166)25-6380, FAX (0166)24-7810

電子メール

[gikai\\_somu@city.asahikawa.lg.jp](mailto:gikai_somu@city.asahikawa.lg.jp)

ホームページ

<https://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/council/index.html>

